

愛知医科大学学報



令和3年4月1日開院の愛知医科大学メディカルセンター
新型コロナウイルスワクチン大規模集団接種実施
(関連記事8頁)

＝ 第163号 ＝

2021. 7月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス
www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

令和4年度学生募集概要	2
令和2年度愛知医科大学決算	5
新型コロナウイルスワクチン接種への対応	8
教授就任インタビュー	20
看護学部キャンドルセレモニー挙行	23
病院長所信表明	28
教育・研究最前線	50
Smile ～スマイル～	52

令和4年度医学部医学科学生募集概要

医学部医学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程						
区 分	募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日	
学校推薦型選抜（公募制）	約20名※1	11/1～11/12 [消印有効]	11/27	本 学	12/9	
学校推薦型選抜 （愛知県地域特別枠A方式）	約5名※2					
国際バカロレア選抜	若干名					
一般選抜	約65名	12/6～1/6 [消印有効]	第1次試験 1/18	名古屋，東京 大阪，福岡	1/24	
			第2次試験 1/27・28 （いずれか希望する日）	本 学	2/3	
大学入学共通テスト 利用選抜	前期	約15名	12/6～1/14 [消印有効]	第1次試験 1/15・16 大学入学共通テスト試験日	大学入学共通テスト 試験会場	2/10
				第2次試験 2/17	本 学	2/24
	後期	約5名	12/6～2/18 [消印有効]	第1次試験 1/15・16 大学入学共通テスト試験日	大学入学共通テスト 試験会場	2/28
				第2次試験 3/3	本 学	3/10
大学入学共通テスト利用選抜 （愛知県地域特別枠B方式）	約5名※2	2/10～2/18 [消印有効]	第1次試験 1/15・16 大学入学共通テスト試験日	大学入学共通テスト 試験会場	2/28	
			第2次試験 3/3	本 学	3/10	

※1 国際バカロレア選抜若干名を含む。

※2 愛知県地域特別枠はA方式・B方式合わせて10名を選抜。

◆入試科目・配点・時間						
区 分	出題教科	選考方法及び出題科目	配 点	時 間		
学校推薦型選抜（公募制） （愛知県地域特別枠A方式）	小論文		5段階評価	60分		
	基礎学力試験 （数学）	『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B（数列・ベクトル）』	100点	60分		
	基礎学力試験 （外国語）	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ』	100点	60分		
	面接（個人面接）		5段階評価	—		
国際バカロレア選抜	書類選考・適性検査・面接（個人面接）					
一般選抜	第1次試験	理 科	『物理基礎・物理』，『化学基礎・化学』，『生物基礎・生物』の3科目のうち2科目選択	200点 （各100点）	100分	
		数 学	『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B（数列・ベクトル）』	150点	80分	
		外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ』	150点	80分	
	第2次試験	小論文		5段階評価	60分	
		面接（個人面接）		5段階評価	—	
大学入学 共通テスト 利用選抜 （前期）	第1次試験 （大学入学共通テスト）	国 語	『国語』（近代以降の文章のみ利用）	100点	大学入学 共通テスト 実施日程どおり	
		数 学	『数学Ⅰ・数学A』，『数学Ⅱ・数学B』	200点 （各100点）		
		理 科	『物理』，『化学』，『生物』の3科目のうち2科目を選択	200点 （各100点）		
		外国語	『英語（リーディング・リスニング）』※	200点		
	第2次試験	面接（個人面接）		5段階評価	—	
大学入学 共通テスト 利用選抜 （後期）	第1次試験 （大学入学共通テスト）	国 語	『国語』（近代以降の文章，古典〔古文・漢文〕）	200点	大学入学 共通テスト 実施日程どおり	
		数 学	『数学Ⅰ・数学A』・『数学Ⅱ・数学B』	200点 （各100点）		
		理 科	『物理』『化学』『生物』の3科目のうち1科目選択 ※但し2科目受験した場合は高得点の1科目を利用	100点		
		地歴公民	『全科目』のうち1科目選択 ※但し2科目受験した場合は高得点の1科目を利用	100点		
	外国語	『英語（リーディング・リスニング）』※	200点			
第2次試験	面接（個人面接）		5段階評価	—		
大学入学共通テスト利用選抜 （愛知県地域特別枠B方式）	試験内容は大学入学共通テスト利用選抜（前期）と同様					

※ 「英語」はリーディング100点を160点に，リスニング100点を40点に換算します。

令和4年度看護学部看護学科学生募集概要

看護学部看護学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程						
区 分		募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日
学校推薦型選抜	指定校制	約15名	10/18～10/29 [消印有効]	11/13	本 学	11/24
	公募制	約15名				
社会人等特別選抜		約5名				
一般選抜		約50名	12/20～1/11 [消印有効]	1/23		2/2
大学入学 共通テスト 利用選抜	A方式	約10名	12/20～1/14 [消印有効]	1/15・16 大学入学共通テスト試験日	大学入学共通テスト 受験会場	2/9
	B方式	約5名				
◆入試科目・配点・時間						
区 分		出題教科	選考方法及び出題科目		配 点	時 間
学校推薦型選抜	指定校制	面接		—	—	
	公募制	国語	『国語総合（古文・漢文を除く。）・現代文B』		100点	45分
		数学	『数学Ⅰ・数学A』※1		100点	45分
		外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ』		100点	45分
		面接		—	—	
社会人等特別選抜		小論文		—	60分	
		面接		—	—	
一般選抜		国語・数学	『国語総合（古文・漢文を除く。）・現代文B』, 『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A』から1科目を選択※1※2		100点	60分
		理 科	『物理基礎』, 『化学基礎』, 『生物基礎』 から1科目を選択		70点	45分
		外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ』		100点	60分
大学入学 共通テスト 利用選抜	A方式	国語・数学	『国語（近代以降の文章）』, 『数学Ⅰ・数学A』, 『数学Ⅱ・数学B』 から1科目を選択		100点	大学入学 共通テスト 実施日程どおり
		理 科	①『物理基礎』, 『化学基礎』, 『生物基礎』, 『地学基礎』 ②『物理』, 『化学』, 『生物』, 『地学』 ①から2科目または②から1科目を選択		100点	
		外国語	『英語（リーディング・リスニング）』※3		100点	
	B方式	国 語	『国語（近代以降の文章）』		100点	
		数 学	『数学Ⅰ・数学A』, 『数学Ⅱ・数学B』 から1科目を選択		100点	
		地理歴史・ 公民	『世界史B』, 『日本史B』, 『地理B』, 『現代社会』, 『倫理』, 『政治・経済』, 『倫理, 政治・経済』 から1科目を選択		100点	
		理 科	①『物理基礎』, 『化学基礎』, 『生物基礎』, 『地学基礎』 ②『物理』, 『化学』, 『生物』, 『地学』 ①から2科目または②から1科目を選択		100点	
			外国語	『英語（リーディング・リスニング）』※3		

※1 数学Aの出題範囲は「場合の数と確率」及び「図形の性質」とする。

※2 数学Ⅱの「微分・積分の考え」は出題範囲から除く。

※3 外国語の配点は200点を100点に換算する。

令和4年度大学院医学研究科（博士課程）学生募集概要

大学院医学研究科（博士課程）の入試日程等は次のとおりです。

1 募集人員

- ・基礎医学系 13名
- ・臨床医学系 17名

2 入試日程

【第1次募集】

出願期間：令和3年8月4日（水）から
令和3年8月18日（水）まで（必着）
試験日：令和3年10月1日（金）
試験場：大学本館
合格発表：令和3年11月1日（月）

【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ実施
出願期間：令和3年12月1日（水）から
令和3年12月15日（水）まで（必着）
試験日：令和4年2月4日（金）
試験場：大学本館
合格発表：令和4年2月28日（月）

3 試験項目・時間

試験項目	時間
外国語（英語） 〔辞書使用可，電子辞書不可〕 ※外国人志願者の外国語試験は，英語一か国語のみによる試験又は英語及び日本語の二か国語による試験のいずれかを選択する。	10：00 ～12：00
面接試験 （志望する専攻分野に関連する専門試験を含む。）	13：00～

令和4年度大学院看護学研究科（修士課程）学生募集概要

大学院看護学研究科（修士課程）の入試日程等は次のとおりです。

1 募集人員

15名

2 教育研究分野

教育研究分野	専攻領域	コース
基礎看護学	看護管理学	修士論文
母子看護学	母性看護学	
成人・老年看護学	慢性看護学	
精神・在宅・地域看護学	精神看護学	
	在宅看護学	
高度実践看護学	地域看護学	高度実践看護師 （専門看護師[CNS]）
	感染看護学	
	臨床実践看護学	

3 入試日程

【第1次募集】

出願期間：令和3年8月6日（金）から
令和3年8月20日（金）まで（消印有効）
試験日：令和3年9月1日（水）
試験場：看護学部棟
合格発表：令和3年9月15日（水）

【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ実施
出願期間：令和4年1月5日（水）から
令和4年1月17日（月）まで（消印有効）
試験日：令和4年2月3日（木）
試験場：看護学部棟
合格発表：令和4年2月9日（水）

4 試験科目・時間

試験時間	試験科目等
9：00～10：30	小論文
10：45～12：15	専門科目（※）
13：15～	面接

※ 専門科目の出題について

- 1 修士論文コース：志願する専攻領域
- 2 高度実践看護師（専門看護師[CNS]）コース：CNS関連分野
- 3 高度実践看護師（診療看護師[NP]）コース：関連領域の病態生理学

令和2年度愛知医科大学決算

令和3年5月31日（月）に開催された理事会及び評議員会において、令和2年度決算が承認されましたので、その概要をお知らせします。

■概要

令和2年度は、大学・病院全体が新型コロナウイルス感染症拡大という未曾有の事態に直面する中、職員一人ひとりが様々な取り組みへの努力を怠ることなく、力量が大いに発揮された年となりました。その一例としてまず、公益財団法人大学基準協会による令和2年度大学評価（認証評価）を受審の結果、「適合」と認定されました。また、平成29年度から4年連続で、文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業」を獲得することができました。医学部では、医師国家試験において全国の私立医科大学中第3位となる新卒合格率98.2%を達成しましたし、看護学部においても看護師国家試験の新卒が99.0%と高い合格率を維持することができました。

一方で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は病院経営に大きな影響を及ぼしました。新病院開院から7年目を迎えた令和2年度の医療収入決算額は、昨年度の374億円強を僅かに下回る366億円強（対前年比2.1%減）を計上できました。

下回った要因の一つとして、職員の感染による2週間の外来診療及び新規入院患者の受け入れ休止により、4月・5月の医療収入は大幅に減少しましたが、その後の感染症対策への積極的な取り組みや、これまで本学が積み重ねてきた医療水準の向上による単価アップが功を奏し、6月以降の医療収入は増収に転じ、経常収支は前年度を上回る黒字幅を確保できました。

また、支出の中で大きな割合を占める人件費は、教員や病院スタッフの人的資源の確保を図りつつ、人件費率が改善し、初めて40%を切り39.73%になりました。こうしたことから、事業活動収支差は13.9億円強のプラスとなりました。これはかつてない危機に直面しても、怯むことなく事態に立ち向かい、打開に向けて努力を重ねた職員の労苦が結実したものと考えています。

愛知医科大学は、アフターコロナも見据えた21世紀における新しい医療の在り方を提示するため、教

育・研究・診療の全てにおいて力を蓄えることを実践し、成果に繋げて参ります。

事業活動収支計算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

（単位：百万円）

		科 目	金 額	前年差		
教育活動収入の部	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	5,053	△6		
		手数料	217	△16		
		寄付金	450	△372		
		経常費等補助金	3,818	2,085		
		付随事業収入	532	19		
		医療収入	36,648	△803		
		雑収入	753	59		
		教育活動収入計	47,470	966		
		教育活動支出の部	事業活動支出の部	人件費	19,042	165
				教育研究経費	26,338	250
管理経費	855			△8		
徴収不能額等	9			△10		
教育活動支出計	46,244			397		
		教育活動収支差額	1,226	568		
教育活動外収入の部	収入の部	受取利息・配当金	4	△1		
		教育活動外収入計	4	△1		
		支出の部	借入金等利息	269	△16	
			教育活動外支出計	269	△16	
		教育活動外収支差額	△265	15		
		経常収支差額	961	583		
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0		
		その他の特別収入	449	406		
		特別収入計	449	406		
	支出の部	資産処分差額	12	7		
		その他の特別支出	1	△14		
		特別支出計	13	△6		
		特別収支差額	436	412		
		基本金組入前当年度収支差額	1,396	995		
		基本金組入額合計	△6,978	△4,374		
		当年度収支差額	△5,582	△3,378		
		前年度繰越収支差額	△57,134	△2,186		
		基本金取崩額	42	25		
		翌年度繰越収支差額	△62,674	△5,540		

（参考）

事業活動収入計	47,923	1,371
事業活動支出計	46,527	376

（注）科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

資金収支計算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位: 百万円)

収入の部			支出の部		
科目	金額	前年差	科目	金額	前年差
学生生徒等納付金収入	5,053	△6	人件費支出	19,003	186
手数料収入	217	△16	教育研究経費支出	22,974	400
寄付金収入	471	△307	（うち医療経費支出）	(21,005)	(359)
補助金収入	4,219	2,476	管理経費支出	618	12
（国庫補助金収入）	(1,792)	(417)	借入金等利息支出	269	△16
（地方公共団体補助金収入）	(2,427)	(2,059)	借入金等返済支出	1,742	△50
資産売却収入	11	11	施設関係支出	4,301	4,165
付随事業・収益事業収入	532	19	設備関係支出	3,930	2,758
医療収入	36,648	△803	資産運用支出	280	△290
受取利息・配当金収入	4	△1	その他の支出	4,135	△216
雑収入	754	59			
借入金等収入	5,540	5,470			
前受金収入	976	10			
その他の収入	8,327	541			
資金収入調整勘定	△9,224	△1,386	資金支出調整勘定	△4,422	△1,167
前年度繰越支払資金	5,685	413	翌年度繰越支払資金	6,382	697
収入の部合計	59,213	6,479	支出の部合計	59,213	6,479

(注) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

貸借対照表

令和3年3月31日現在

(単位: 百万円)

資産の部			負債の部		
科目	金額	前年差	科目	金額	前年差
固定資産	51,018	3,958	固定負債	27,674	2,868
有形固定資産	44,426	3,560	長期借入金	19,407	3,268
土地	8,830	57	学校債	580	△140
建物	24,458	△1,716	長期未払金	1,181	△299
構築物	1,376	△112	退職給与引当金	6,506	39
教育研究用機器備品	4,571	1,256	流動負債	8,426	1,879
管理用機器備品	176	△13	短期借入金	2,232	800
図書	929	12	1年以内償還予定学校債	180	△130
車両	23	17	未払金	4,579	1,167
建設仮勘定	4,063	4,059	前受金	992	△1
特定資産	4,478	△979	預り金	444	43
学校債償還引当特定資産	760	△270			
借入金返済引当特定資産	1,300	△700	負債の部合計	36,100	4,747
医療機器等整備調整資金引当特定資産	2,350	0			
国際交流推進引当特定資産	36	△4	純資産の部		
教育研究活性化引当特定資産	32	△4	科目	金額	前年差
その他の固定資産	2,113	1,377	基本金	93,024	6,937
借地権	20	0	第1号基本金	89,566	6,755
電話加入権	5	0	第4号基本金	3,458	182
施設利用権	131	△15	繰越収支差額	△62,674	△5,540
ソフトウェア	1,382	1,317	翌年度繰越収支差額	△62,674	△5,540
有価証券	11	0			
長期貸付金	563	75	純資産の部合計	30,350	1,396
保証金	0	0	負債及び純資産の部合計	66,450	6,144
預託金	0	△0			
流動資産	15,432	2,185			
現金預金	6,382	697			
未収入金	8,164	1,328			
貯蔵品	346	△99			
短期貸付金	148	13			
有価証券	240	240			
立替金	2	△1			
前払金	152	8			
資産の部合計	66,450	6,144			

(注) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

■前年度との比較（主な増減）

(1) 事業活動収支計算書

収入…事業活動収入は479億円で、前年対比13億7,100万円の増収となりました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、経常費補助金収入が20億8,500万円増加となり、医療収入は8億300万円の減少となっています。

支出…事業活動支出は465億円で、前年対比3億7,600万円の増加となりました。主な内訳としては、人件費が1億6,500万円の増加、教育研究経費が2億5,000万円の増加、管理経費が800万円の減少となっています。

(2) 資金収支計算書

資金収入の部合計は、592億円で前年対比64億

7,900万円の増加となっていますが、調整勘定等を除く実質的な収入は約74億5,200万円の増収、同様に実質的な資金支出の部合計は、69億4,900万円の増加となりました。

(3) 貸借対照表

資産総額は前年比61億円（10.2%）増加の664億円となりました。また、純資産額は前年比14億円（4.8%）増加の304億円となりました。

なお、詳細についてはホームページをご覧ください。

<https://www.aichi-med-u.ac.jp/su01/su0105/index.html>

大学・病院へのご寄付に感謝申し上げます

大学病院を有する本学へのご協力として、BENKEI様から、食料（菓子パン880個）のご寄付についてお申し出を賜りました。このたびのご厚意に深く感

謝申し上げますとともに、前号に引き続きご紹介させていただきます。（受領期間：令和3年5月1日～7月31日）



愛知医科大学病院の新型コロナウイルスワクチン接種に対する取り組み

令和3年3月12日（金）から7月21日（水）にかけて、愛知医科大学病院において、院内医療従事者及び近隣医療従事者、合計4,485名への新型コロナウイルスワクチン接種が実施されました。

愛知県からの要請に基づき、優先接種実施医療機関として実施された事業となりますが、医師、看護師、薬剤師及び事務職員の連携の下、感染対策と円滑な接種体制を構築した結果、医療従事者向け新型コロナウイルスワクチン接種を無事実施することができました。

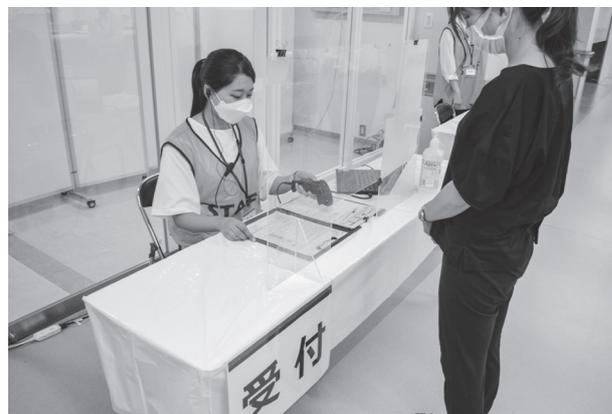
また、本院は愛知県からの要請に基づき、令和3年5月24日（月）から開設されている県営名古屋空港ターミナルビルでの新型コロナウイルスワクチン大規模集団接種会場に医師及び看護師を派遣しています。愛知県が開設する大規模接種会場の一部への協力となりますが、対象自治体にお住まいの一般市民の皆さまが速やかに新型コロナウイルスワクチンを接種できるように努めて参ります。

メディカルセンター 新型コロナウイルスワクチン大規模集団接種の開始

メディカルセンターでは、愛知県からの要請を受け、令和3年7月3日（土）から新型コロナウイルスワクチン大規模集団接種会場としての運用が開始されました。

初日には、大村秀章愛知県知事、中根康浩岡崎市長が会場を訪れ、接種の様子などを視察されました。また、ワクチン接種の開始に当たっては、万全の感染防止対策と円滑な接種体制の構築により、一般市民の皆さまが安心して接種を受けられる環境を整えました。

これまでに、愛知県枠として警察、自衛隊、教員、公務員の方や、岡崎市、豊田市、知立市、みよし市の方を対象に、平日の午後1時から午後8時までと、土日の午前10時から午後7時までの間で、一日当たり最大1,100人程度のワクチン接種を行っており、7



接種受付の様子

月末時点で延べ約20,000人の接種が実施されました。

大規模集団接種による一刻も早い集団免疫の獲得が求められている昨今、西三河地区の地域医療を担う病院として、今後も職員一丸となって努めて参ります。

令和3年度職員新任式挙行

令和3年4月1日（木）大学本館たちばなホールにおいて、令和3年度職員新任式が挙行されました。

式では、祖父江元 理事長から、「私は、それぞれの場面で皆さんが考えたことを職場の中で表現できる、そういう場が作れたら組織は非常に発展すると思っています。日々、世の中は変わっていますので、自分も部署も大学も、日々、変化・進化していく必要があります。これを怠るということは、社会的に脱落していくということです。皆さんには、日々どうしたらいいか、1年後、5年後どうしたらよいかを目標に置き換えて行動していただきたいと思います。」とあいさつがありました。



出席者による記念撮影

なお、今年度の出席者は155名で、内看護職員131名、医療職員19名、事務職員3名、技術職員1名、技能職員1名です。

役員・評議員の異動

【理事】

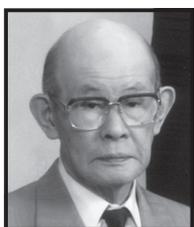
- 辞 任 磯部和男（令和3年5月31日付）
就 任 山口 力（任期：令和3年6月1日～令和4年1月27日）

【評議員】

- 辞 任 磯部和男，松下 尋（令和3年5月31日付）
就 任 古井 景，村上恒久（任期：令和3年6月1日～令和4年1月27日）

訃 報

宮田 伸樹名誉教授御逝去



令和3年6月4日（金）に宮田伸樹名誉教授（放射線医学講座）がご逝去されました。享年86才でした。

宮田先生は、昭和35年に名古屋大学医学部を卒業され、昭和48年8月に愛知医科大学放射線医学講座の教授に就任されました。退官される平成13年までの28年間にわたり、同講座の創設から発展へと大きく尽力されました。宮田先生の研究は多岐にわたり、画像診断領域では放射線画像によるシミュレーションと画質

評価法の確立、放射線治療領域では低酸素腫瘍細胞に対する放射線増感物質の開発と作用機序の解明など、その研究業績は今日の放射線医学の発展に多大な貢献をされています。

また、平成4年から本学附属病院副院長、平成5年から本学評議員、平成6年から本学理事なども歴任され、愛知医科大学の運営、医学教育、診療、研究の充実にも大きく尽力されました。

ここに哀悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

教育・研究・診療の基盤整備のため募金へのご協力をお願いします



愛知医科大学は、開学以来50年目を迎えた現在4,427人の医学部卒業生と1,890人の看護学部卒業生が、医学、医療の第一線で活躍しております。

本学では、医学の目覚ましい発展に即応した教育、研究、診療活動を展開するため、特色ある大学として21世紀における更なる発展を期して各種の事業の充実や施設・設備の整備及び拡充を図ってきました。

学校法人 愛知医科大学
理事長 祖父江 元

しかしながら、少子高齢化の進展、医療制度改革、医学・医療技術の飛躍的な進歩等の環境変化が急速に進み、本学の教育・研究・診療のハード・ソフトにわたる最新鋭化が絶えず求められています。その財政基盤の一層の強化・安定化を図るため、募金へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

しかしながら、少子高齢化の進展、医療制度改革、医学・医療技術の飛躍的な進歩等の環境変化が急速に進み、本学の教育・研究・診療のハード・ソフトにわたる最新鋭化が絶えず求められています。その財政基盤の一層の強化・安定化を図るため、募金へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

募金要項

- ① 募金目的 教育・研究・診療に係る基盤整備のため
- ② 募金口数 個人：一口 10,000円
法人・団体：一口 50,000円
- ③ 免税の取り扱い 個人：税額控除制度・所得控除制度のいずれかを選択
法人・団体：受配者指定寄付金制度など

寄付の方法

<書面によるお申込み>

寄付申込書をご記入の上、愛知医科大学 資金・出納室までご送付いただき、別途お振込みなどをお願い致します。

書類等は本学HP「教育・研究・診療の基盤整備事業募金」<https://www.aichi-med-u.ac.jp/su01/su0109/>をご覧くださいダウンロードしていただくか、「愛知医科大学 資金・出納室」(0561-63-1062)までご連絡ください。

<インターネットによるお申込み>

本学HPからお申込みいただくことができます。また、次のようなお支払いができます。

◆クレジットカード



◆コンビニ



◆ネットバンク（ペイジー）



お問い合わせ

学校法人愛知医科大学 法人本部 資金・出納室

電話 **0561-63-1062**

E-mail: sikin@aichi-med-u.ac.jp

ホームページ

<https://www.aichi-med-u.ac.jp/su01/su0109/>

愛知医大 募金

検索



令和3年度医学部父兄後援会定期総会開催

新会長に山口 力氏を選出



令和3年度愛知医科大学医学部父兄後援会・父兄互助会定期総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、紙面による持ち回り審議で実施され、新会長に山口力氏【写真】が選出

されました。

報告事項として、父兄後援会・父兄互助会の令和2年度事業及び決算について報告されるとともに、審議事項として山口新会長を始めとする総勢19名の

令和3年度新役員が選出され、令和3年度事業計画及び予算案について原案どおり承認されました。

総会終了後に例年開催されている国試懇談会についても、開催を見送ることになりました。

なお、学報掲載に当たり山口新会長から「この1年間役員、父兄後援会・父兄互助会の役割を十分に発揮できるよう邁進する所存です。今後とも本会へのご支援、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。」とのあいさつがありました。

令和3年度看護学部父母会定期総会開催

新会長に村上 恒久氏を選出



令和3年5月22日（土）に令和3年度看護学部父母会定期総会が開催されました。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインによる開催となりました。

本会においては、松下尋会長から、令和2年度の事業報告及び決算報告、令和3年度予算（案）、令和3年度新役員（案）等について説明がなされ、原案のとおり承認されました。これにより、令和3年度看護学部父母会の新会長として、村上恒久氏【写真】が選出され、「これからの1年間、役員の方々と共に父母会をより一層充実したものとし、会員の皆さまのご協力とご指導を仰ぎながら、学生の有意義な大学生活及び今後の大学の発展のために努力を

していきたいと思えます。」とのごあいさつがありました。

議事終了後、坂本真理子看護学部長から、「コロナ禍における看護学部の取組みについて」のお話があり、続いて泉雅之教務学生部長からは、「令和2年度学生の学修成果について」、井上里恵看護部長からは、「愛知医科大学病院学生アルバイトについて」のお話があり、定期総会が終了しました。

また、定期総会に引き続き、各学年に分かれてオンラインによる「学年別懇談会」が開催され、ご父母と各学年の主任、副主任により、コロナ禍における大学の現状やその対応等について熱心な意見交換が行われました。学生さんの現状を踏まえたより良い学生生活を送るための環境づくりに繋がることを期待されます。

私立大学研究ブランディング事業 評価委員会の開催

平成30年度文部科学省・私立大学研究ブランディング事業（社会展開型）「健康維持・増進を支える次世代先制地域医療：炎症評価コホート研究」は、令和2年度をもって3年間の補助期間が終了しました。その間、地域の人々の健康維持と増進を支え、社会の負託に応える大学となることを目指し、コロナ禍の中、長久手市の全面的な協力を得て本事業を推進して参りました。

令和3年5月6日（木）に評価委員会がオンライ

ンにて開催され、外部評価委員の先生方からは、「研究面では、特記すべき成果も得られつつある。」「今後、コホートのスケールを拡大することによって得られる情報は、有意義な成果をもたらす可能性がある。」などの評価や、今後の展開に向けた建設的なご意見を頂きました。

本事業は、更に2年間継続する予定です。引き続き、本事業の推進に向けて、皆さまのご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年度愛知医科大学公開講座

本学では、教育・研究を広く社会に開放し、地域社会の教育・文化向上に寄与することを目的として、公開講座を開催しております。

テーマを「コロナ時代の健康講座」と題した今年度の公開講座は、開講以来、初めての試みとなるオンライン動画配信により開催されることとなりました。

どなたでも無料で受講できますので、本学ホームページの「公開講座」ページからお申込みの上、是非ご視聴ください。



令和3年度
愛知医科大学
公開講座
健康講座
動画de公開講座 9/1(水)

新型コロナウイルス肺炎と呼吸器の病氣	伊藤 理 (呼吸器・アレルギー内科・教授)	30分動画×1本
声と食事を大切にする喉頭癌・咽頭癌の最先端治療	藤本 保志 (耳鼻咽喉科・教授)	30分動画×1本
新型コロナウイルス感染症の病態と感染対策	三橋 廣繁 (感染症科・教授)	30分動画×1本
その症状、パーキンソン病かも!? 早めの治療で元気な人生を	齋木 英資 (パーキンソン病総合診療センター・教授)	15分動画×2本
南海トラフ・気象災害、避難所での生活不活発病に備えて	津田 雅康 (災害医療研究センター・教授)	30分動画×1本
コロナ禍におけるお酒とのつきあい方を考える	心光世津子 (保健看護学・教授)	15分動画×2本
そのメタボ、ほんとうにコロナのせいですか?	山中 真 (保健看護学・教授)	30分動画×1本

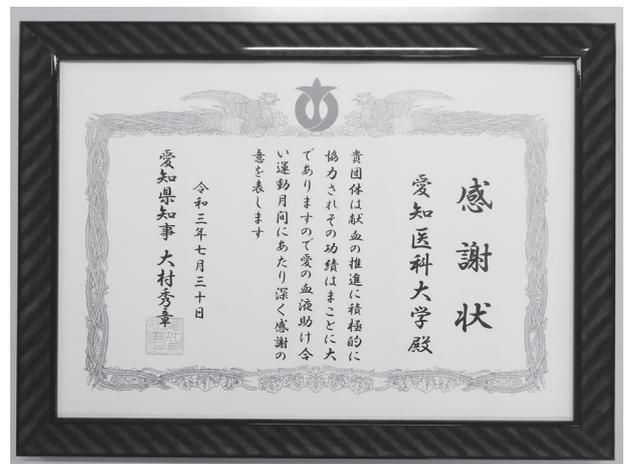
主催：愛知医科大学
後援：一般社団法人愛知医科大学医師会 一般財団法人愛知医科大学奨励会 愛知医大 三井物産 協賛

献血事業協力に対する感謝状の贈呈

社会貢献の一つとして、本学が多年に亘り協力してきた献血事業について、この度愛知県知事からその功績に対し感謝状が贈呈されました。【写真】

これは、献血運動の推進に積極的に協力し、他の模範となる実績を示したことが評価されたもので、愛知県の「愛の血液助け合い運動月間」の実施に当たり、7年以上に亘って組織的に献血に協力している団体に贈られるものです。

本学は、今後も引き続き献血への協力を始め、社会に貢献できるよう努めて参ります。





献血ご協力ありがとうございました

令和3年6月25日（金）大学本館1階南側ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施され、職員を始め多くの方にご協力いただきました。

せっかく献血をお申し出いただいたのに体調によりご協力いただけなかった方々は、ご自愛いただき、次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願いいたします。

夏の団体献血（結果）

・ 献血受付数	・ 45名
・ 献血できた方	・ 38名 (400ml・31名)
・ 献血できなかった方	・ 7名

今回は令和4年1月頃に予定していますので、ご協力よろしくお祈りいたします。

愛知医科大学・藤田医科大学合同研究推進フォーラム開催 ～両大学の更なる連携強化に期待！～

令和3年6月25日（金）午後4時30分からオンライン形式にて、愛知医科大学・藤田医科大学合同研究推進フォーラム「研究推進と情報発信の潮流－国・私立医大・民間それぞれの立場から－」と題し、本学と藤田医科大学での合同勉強会が開催されました。

昨今、研究を巡る環境が大きく変化しつつある中で、研究推進は研究者のみならず大学組織全体に非常に重要なこととなっています。

本フォーラムでは、国の機関、大学、民間と異なる性質の各組織から著名な研究者等の参加を得て、研究を取り巻く環境の現状、研究の環境づくりをどうすべきか、また、各大学での研究力向上のための取り組みの紹介などの講演が行われました。

同分野の研究機関である藤田医科大学との合同勉強会は、近隣でありながらこれまで開催機会が少なかったのですが、同大学研究支援推進本部・総合医科学研究所の小清水久嗣准教授と、本学研究創出支援センターの武内恒成センター長とのこれまでの研究を通じた関係により実現したもので、両大学の関係者をお招きすることで、組織内部の取組状況まで伺い知ることができる大変貴重な機会となりました。

愛知医科大学・藤田医科大学合同研究推進フォーラム

研究推進と情報発信の潮流 － 国・私立医大・民間それぞれの立場から －

Aパート：研究環境を俯瞰する

- 自然科学研究機構・研究力強化推進本部 特任教授（統括URA） 小泉 周
- 文部科学省科学技術・学術政策研究所(NISTEP) データ解析政策研究室長 林 和弘
- 株式会社バイオインパクト(日本の研究.com) 代表取締役 杉原 淳一

Bパート：大学の取り組み

- 愛知医科大学 研究創出支援センター 武内 恒成
- 藤田医科大学 研究支援推進本部 小清水 久嗣
- 順天堂大学研究戦略推進センター 研究企画・管理室 平野 仁司

Zoom ウェビナー
オンライン
開催

**2021年
6月25日
(金)
16:30-19:30**

アクセス！
右QRコードまたは下のURLから
bit.ly/3pBCJpE

企画・運営（順不同）
愛知医科大学 研究創出支援センター
藤田医科大学 研究支援推進本部

科学研究費助成事業執行方法等の説明動画を配信

令和3年4月1日(木)から、科学研究費助成事業(科学研究費補助金、学術研究助成基金助成金)の執行方法等の説明動画が授業支援システムAIDLE-Kにより配信され、視聴が可能となりました。

本動画は、今年度に科研費の補助事業者となっている研究代表者及び研究分担者を対象に、採択された科研費の制度に関する理解の向上と適正な執行を確保し、不正防止等の徹底を図ることを目的に作成し配信されたものであり、昨年度から新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対応として、講義室において対面で行う説明に替えて動画の配信としたものです。

説明内容は、年間のスケジュール、補助金制度と基金制度の相違点、ルール改正、学内執行ルール及び補助事業遂行に当たっての留意点等や、最近の研究費不正使用に関する事例紹介など、視聴する研究者等に対して不正使用防止に向けた注意喚起を図っています。

また、本動画を視聴された教職員89名から内容等に関するアンケート調査に回答していただきました。これらの結果を基に、今後の説明会開催形式の改善に役立てるとともに、説明内容等をより充実させていきます。

科研費獲得支援セミナー開催 ～採択される科研費申請書の書き方のコツとは?～

令和3年7月15日(木)午後4時30分から科研費獲得支援セミナーと題した講義がオンライン形式にて行われました。科学研究費助成事業(科研費)申請予定者に対し、採択される申請書の書き方やコツなどを、外部からお招きした講師や実際に科研費を獲得した本学の教員にご説明いただきました。

この講義は、著名な研究者や身近な教員からの講義を聴くことにより、科研費申請への関心を持ってもらい、申請への動機付けとすることを狙いとして開催されたものです。久留米大学分子生命科学研究所の児島将康教授を始め、本学の渡邊大輔教授(皮膚科学講座)、山中真教授(看護学部)、武内恒成センター長(研究創出支援センター)、牛田享宏教授(学際的痛みセンター)らがそれぞれ講義を担当し、科

研費獲得を目指す多くの教員などが熱心に聴講していました。

また、講演後に笠井謙次副学長(特命担当)から、国の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」の令和3年改正に関する説明があり、続いて総務部研究支援課の加藤広悟主事から、科研費の申請方法や事務的な注意点についての説明が行われました。

科研費申請予定者にとっては、申請書の書き方を学ぶとともに、研究不正防止への取り組み、申請に関する手続きなど、多面的な内容を聴講し有意義なものとなりました。

今後、研究活動の一層の活性化と科研費を始めとする競争的資金の獲得を推進していきます。

働き方改革プロジェクト 大学運営のデジタル化ワーキング主催勉強会の実施

令和3年7月9日（金）、あまねキャリア工房代表で業務改善・オフィスコミュニケーション改善士の沢渡あまね氏をお招きし、働き方改革・組織風土改革をテーマとした勉強会が実施されました。当日は、事務系管理職者を対象とした勉強会と、全事務職員を対象とした講演会の2部構成にて行われました。

前半の管理職勉強会では、「『職場の問題かるた』“言える化してモヤモヤ解決！”（沢渡氏著）」を使ったグループワークを皮切りに、自組織の問題点や課題について部署の垣根を越えた議論が行われました。個人も組織も成長できる職場作りには、「健全な問題意識」そして「健全な成長欲求」を持つことが重要であるとのお話がありました。

後半は、たちばなホールで『『仕事ごっこ』に学ぶ、働き方改革』をテーマとした講演会が開かれ、仕事の生産性を下げることや、成長機会を奪うことに繋がる「職場の常識」について、童話風の例えを用い



管理職勉強会グループワークの様子

た具体的な内容でお話いただきました。参加者からは、「当たり前になっている仕事は果たして本当に必要なのか、かなり考えさせられた。」「長年の慣習によって行われていることが、本当に必要な業務なのか再考する必要があると感じた。」等の感想が寄せられ、日頃の業務改善のヒントを得る機会になりました。

eラーニングシステム（AIDLE-K）利用説明会開催

令和3年6月15日（火）午後4時30分から、総合学術情報センター（ICT支援部門）主催のeラーニングシステム（AIDLE-K）利用説明会がオンラインにて開催され、22名の参加がありました。

説明会では、「AIDLE-K利用時における各種設定のちょっとしたコツ」をテーマに、ICT支援部門の担当者から、同システムの基本操作を踏まえた上で、利用時に便利になる機能や設定の紹介が行われました。

AIDLE-Kは、ファイルのアップロード、課題の提出、小テストの実施及びアンケートの収集などパソコンや携帯端末を活用した授業支援に効果的な機能を有しており、インターネットを介して、自宅な

ど学外からも予習や振り返り学習等に利用できるようになっています。

前年度に引き続き今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、遠隔（オンライン）講義が実施されており、これまで以上にeラーニングシステムの必要性が高まっていることから、本システムの一層の利活用が期待されます。

総合学術情報センター（ICT支援部門）では、今後も教育におけるeラーニングシステム活用のサポートを通じて、授業や自学自習における学修支援を行うとともに、教育現場での活用に貢献することを目指しています。

令和3年度愛知医科大学SDへの取り組み

本学では、「SD（スタッフディベロップメント）：教職員に研修の機会を提供する等の取り組み」を積極的に行っております。

令和3年度新規採用事務職員研修実施

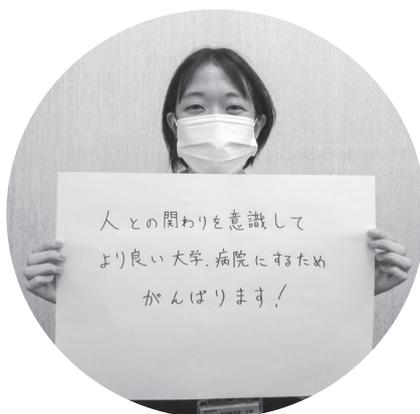
令和3年4月1日（木）、2日（金）、5日（月）及び6日（火）に令和3年度新規採用事務職員研修が実施されました。研修では、新規採用事務職員3名【写真】が大学の施設見学やコミュニケーションワークを通じて同期同士の仲を深めるとともに、電話対応や文書事務、経理システムなど業務遂行に必要なスキルを学びました。また、内定期間中からグループで取り組んだ「本学及び本院の特徴は？」、「あなたは本学の職員として、どのような大学及び病院にしていきたいですか？」という課題に対する発表が管理職者の前で行われました。

4月9日（金）から5月28日（金）までの毎週金曜日に行われた新規採用事務職員向け事務組織研修では、各部署の先輩職員が講師として自部署につい

での解説を行い、新規採用事務職員は、今後関わる事務組織の一つひとつについて詳しく学ぶことができました。

研修受講後のアンケートでは、「講師の中には、名前を覚えてくださった方がいて、業務で関わりやすかった。」「実践的な研修が印象に残っている。」といった感想がありました。

なお、毎年4月に行われる新規採用職員研修では、事務職員・看護職員・医療職員が合同で本学における基礎知識などについての研修を受講しますが、昨年度同様に新型コロナウイルス感染症拡大を防止する観点から、ホームページ上での資料閲覧とアンケート回答による研修受講となりました。



令和3年度新規採用職員ビジネスマナー研修実施

令和3年4月12日（月）及び13日（火）大学本館たちばなホールにおいて、令和3年度新規採用職員を対象とした看護職員・医療職員・事務職員合同のビジネスマナー研修が実施され、154名が参加しました。【写真】新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、日程を2日間（各日同内容）とし、各日の受講人数を全体の半分に分けたため、出席者が適切な距離を保ったままペアワークを行うことができ、コロナ禍においても実践的な研修が実現できました。

研修では、知識、技術、人間性という三つの観点からプロフェッショナルとして必要なものを考え、常語を敬語に言い換える変換演習や電話対応のロールプレイを行い、接遇用語を実践して習得することを目指しました。



受講者からは、「参加型の研修で飽きずに学ぶことができた。」「敬語や電話対応は、実際にロールプレイを行い、想像以上に使いこなせていないことに気付いた。」「実践練習もあり、楽しく、かつ社会人としてのマナーも身に付けることができ、良い研修になりました。」などの感想がありました。

令和2年度新規採用事務職員1年フォロー研修実施

令和3年5月19日（水）午後1時30分から午後5時まで大学本館701会議室において、事務部門の令和2年度新規採用事務職員を対象に、配属後1年を一つの区切りとしたフォロー研修が実施されました。

今回の1年フォロー研修は、これまで数々の研修において受講者としての立場しか経験したことがなかった入職2年目となる自身が、初めて講師として演台に立ち、プレゼンテーション発表を行うという形式で行われました。令和3年2月に「令和3年度入職の新規採用事務職員に対し、2年目の先輩として伝えたいこと、教えてあげたいことを発表する」という課題が通知され、約3か月の準備期間が設けられました。

研修当日は、令和3年度新規採用事務職員、各部署における上長及び先輩職員など約20名が聴講する中、各自準備したスライドを用いた発表が行われました。同年度に採用された職員だけでなく、上司や後輩職員に囲まれ、温かな雰囲気での研修が始まり、プレゼンテーションでは、各自が自己紹介や自身の仕事を紹介し、1年の振り返りについて自信を持っ



入職1年目、2年目の皆さん

て個性溢れる発表を行うことができました。

プレゼンテーションに関して受講者は、「聞き手の方がなるべく退屈にならないように」、「早口にならない」、「スライドの文字数や情報量が多にならないように」など講師側の気遣いとその労力への気付きが得られたとともに、「1年間を振り返る機会となり、今までこれだけ頑張ってきたという自信を感じることができ、これからの目標を明確にすることができました。」といったポジティブな感想がありました。

OJT研修「部下や後輩を成長させる指導技術研修」実施

令和3年6月17日（木）大学本館701会議室において、事務職員を対象としたOJT（On the Job Training）研修「部下や後輩を成長させる指導技術研修」が実施され、17名の事務職員が参加しました。

本研修は、対象者別に基礎編・応用編と内容を分け、基礎編では電話対応の説明や報告漏れの際の指導方法など、具体的なシチュエーションを想定したペアワークを多く実施し、新人指導のコツを学びました。応用編では、これまでの良かった指導・悪かった指導の振り返りや、これまで実際に経験したケーススタディを通して、対象者とどのように話すと良いか、どのような傾聴が効果的かについて学びました。

受講者からは、「研修内容を参考に、自信を持って指導していけるようにしたいと思います。」



OJT研修の様子

「OJTを活用することが組織として大きなメリットをもたらすことを理解し、課内のスタッフにも共有していきたい。」、「自分の指導方法の良い点・悪い点がより明確にイメージすることができました。」などの感想がありました。

「航空機事故から学ぶ」講演会開催

令和3年6月30日（水）午後4時からC病棟2階C201講義室において、全教職員を対象としたSD講演会「航空機事故から学ぶ」が実施されました。【写真】講演後には、同内容を動画配信することを、予め周知していましたが、当日は教職員24名の方が講演会に足を運ばれました。

今回の研修は、昨年11月に実施した「やりたい研修アンケート」の結果から実現した研修であり、研修講師は、外科学講座（心臓外科）講師の杉山佳代先生に担当していただきました。

研修では、医療業界の事故防止への取り組み等は、航空業界を参考に発展してきており、航空機事故防止が医療事故防止に関連があることを学びました。そして、実際に起こった航空機事故の原因の一部は適切なCRM（Crew Resource Management）により防げた可能性があり、事故の発生を抑える一つの



方法としてCRMが重要であり、これは医療現場にも当てはまることを学びました。

受講者からは、「航空業界以外においてもCRMが重要であることが認識でき、職場でも取り入れていく必要があると思う。」、「日頃からコミュニケーションをとり、課内の人間関係をより良くしたい。」といった感想がありました。

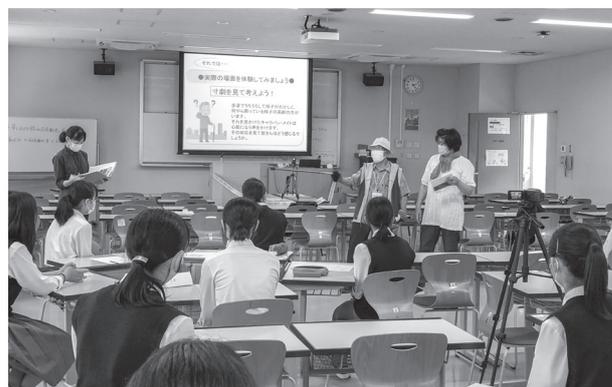
【高大連携事業】

認知症サポーター養成講座開催

令和3年7月7日（水）午後1時30分から午後3時30分まで、看護学部棟N301教室において、愛知県立長久手高等学校との高大連携事業「医療看護探究C」の授業の一環として、社会福祉法人長久手市社会福祉協議会、キャラバン・メイト及び長久手市役所長寿課のご協力の下、「認知症サポーター養成講座」が開催されました。

当日は、「医療看護コース」の第2学年17名が参加し、前半は、認知症についての講義、認知症の方への対応方法についてのDVD視聴、キャラバン・メイトによる認知症の方への声掛けの寸劇鑑賞が行われました。後半は、寸劇での対応における良い点・改善点をグループ討議した後、全体で発表が行われ、最後に数名の生徒がキャラバン・メイトの演じる認知症の方への声掛けを体験しました。

高校生の皆さんは積極的に参加し、笑いあり拍手ありと大変楽しく学んでおり、「声かけ体験を実際



認知症の方への対応方法を学ぶ高校生

に行ったことで印象に残った。」「ゆっくり、やさしく、丁寧に話し、温かい雰囲気作りが大切だと思った。」「マイナスイメージしかなかったが、認知症はその人の個性でプラスの面がたくさんあると分かった。」などの感想がありました。認知症の方への理解を深め、接し方の基本について考える講座となりました。

【高大連携事業】

総合学術情報センター図書館の利用

総合学術情報センター（図書館部門）では、愛知県立長久手高等学校と愛知医科大学との高大連携事業の一環として、令和元年度から長久手高等学校の生徒及び教職員の学習のために各種サービスを提供しています。

医学・看護学の専門書の閲覧及び貸出、閲覧席やグループ学習室の利用、館内の利用者端末から医療系データベースの検索や電子ブック、電子ジャーナ

ルの閲覧ができます。

令和3年4月21日（水）には、医療看護コース第2学年の生徒17名を対象に、司書による図書館利用ガイダンスを実施し、館内を回りながら基本的な資料の探し方や施設の利用方法などの説明が行われました。現在、学習の場として図書館を積極的に活用していただいています。

教授就任インタビュー



外科学講座（呼吸器外科）・教授

ふくい たかゆき
福井 高幸

— 教授就任に当たっての 抱負を聞かせてください。—

令和3年5月1日付で外科学講座（呼吸器外科）教授を拜命しました福井です。皆さま、どうか何卒よろしくお願い致します。

私は、平成10年に浜松医科大学を卒業後、愛知県がんセンター胸部外科でレジデント、スタッフを経験しました。学位は名古屋大学にて平成18年に取得し、名古屋大学病院呼吸器外科で9年間勤務しました。というわけで、愛知医科大学に足を踏み入れるのは今回が初めてであります。しかし、15年以上住んでいる自宅は名東区で、本院は最寄りの総合病院として親しみを感じておりました。このたび本学での職を得たことを本当に嬉しく思っております。

診療面では、低侵襲手術を積極的に行うつもりです。呼吸器外科低侵襲手術は、「胸腔鏡下手術（特に、単孔式）」と「ロボット支援下手術」の二つの流れができつつあります。より多くの患者さんにそのメリットを感じてもらえるよう努力します。特に、「スムーズな手術」を常に念頭に置いた手術を心掛けます。

— 現在の研究分野に進まれた きっかけを教えてください。—

医学部卒業時は、漠然と「外科系がいいかな。」と思っていた程度でしたが、研修病院の呼吸器外科の先生（後に、がんセンターで手術を教わりました。）から誘われてこの道に入りました。「これから肺癌は増えるけど、東海地区には呼吸器外科医が足りないから、先生が必要なんだよ。」と勧誘されたことを覚えています。愛知県がんセンターでは、手術はもちろん、胸部悪性腫瘍学を基礎から叩き込まれ、基礎・臨床研究の大切さを恩師の光富徹哉先生（近畿大学教授・現世界肺癌学会理事長）から教わりました。

未だに難治癌の代表である肺癌に立ち向かうために技術（Art）を磨くことと、疑問を解決しエビデンスを築くための科学（Science）を両立した外科医になることを求めています。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

診療科のどこに注目しますか？学生の皆さんと年齢の近い先輩医師が日々楽しく、充実した仕事をしているかどうかはとても重要です。私たちが目の前の患者さんの回復を喜ぶ姿を是非見てください。「自分もあのグループの仲間になりたい。」と思えます。呼吸器外科はそんな雰囲気大切にしています。

また、呼吸器外科は体力面で不安を感じているかもしれない女性医師でも問題なく活躍できる外科診療科ですので、男女問わず新しい仲間を歓迎します。

オフショット



趣味の星景写真「石垣島の天の川」
(2019年夏、福井高幸撮影)

令和3年度医学部解剖慰霊祭挙行

令和3年度の医学部解剖慰霊祭は、新型コロナウイルス感染症の持続的な感染対策が求められている状況の下、令和3年5月10日（月）覚王山日泰寺において、感染のリスクを減らすための措置を講じた上で、大学関係者のみが参加する規模縮小形式にて厳かに執り行われました。本学からは、若槻明彦医学部長、解剖学講座の内藤宗和教授及び病理学講座の笠井謙次教授を始めとする関係教職員6名が参列しました。

今年度の慰霊祭では、令和2年4月から系統解剖と病理解剖にご遺体を供せられた41柱の御霊を新たに合祀し、総数5,218柱の御霊に対し、法要が営まれました。

午後2時から導師の入堂により祭儀が始まり、若槻医学部長が慰霊の辞を述べ、御霊に深い感謝と尊



献体者のご冥福を祈る本学参列者

崇の念を捧げました。

この後、広い本堂に僧侶の読経が響きわたる中、若槻医学部長始め参列者一人ひとりが焼香して献体者のご冥福を祈り、つつがなく慰霊祭が終了しました。

令和3年度医学部第1回FD開催

本年度1回目の医学部FD（ファカルティ・デイベロップメント）は、「医学教育分野別評価の年次報告書作成」をテーマとして、令和3年6月22日（火）午後5時30分から大学本館たちばなホールにおいて開催され、参加者は72名でした。

本学は、令和元年9月に日本医学教育評価機構（JACME）による分野別評価を受審し、様々な指摘を受けました。毎年8月末までに同機構への改善報告を行うこととなっており、今年度は受審後、初めての年次報告となります。年次報告書の作成に当たり、各領域のリーダー、メンバーの見直しを行いました。

当日は、祖父江元 学長及び若槻明彦医学部長から、「分野別評価を通して教育を含めた本学の改革を遂行して欲しい。」とのあいさつがありました。続いて、早稲田勝久医学教育センター長から年次報告書作成に関する概要説明があり、その後、領域毎に講義室に分かれ、グループ討議が行われました。グループ討議では、令和元年受審時の記載内容を再



グループ討議の様子

確認し、評価報告書で指摘された部分に関して、この2年間での改善内容・今後の方針が活発に議論されました。また、各領域には担当の事務職員も加わり、改善内容の根拠資料を確認しながら、意見交換が行われました。

この分野別評価の作業は、費やされる労力も大きいですが、本学の現状や今後の方向性を確認する良い機会となっています。今後も定期的に年次報告書作成のためのFDを開催し、情報の共有を図っていきますので、ご協力の程よろしく申し上げます。

リハビリテーション医学講座設置

医学部に令和3年7月1日付けで、「リハビリテーション医学講座」が設置されました。初代教授に就任された木村伸也教授から、「平成30年4月に設置されたリハビリテーション科が令和3年7月に教員定数を拡張し、リハビリテーション医学講座として新たなスタートを切りました。リハビリテーション医学は20世紀半ばに専門分野として独立しました。この分野で働く専門の医師は、量・質ともに一層の強化が求められています。超高齢社会において、生活機能と障害を対象とするリハビリテーション医療

の社会的重要性が増し、廃用症候群の予防・治療法、リハビリテーション対象疾患の拡大に伴う新たな技術開発、チーム医療推進など多くの新しい課題に向かって臨床・教育・研究を進めていきます。特に研究面では、生活機能と障害の診断・評価技術、ボツリヌス療法、義肢装具療法、ロボット技術活用による早期からの機能回復治療等の臨床研究を推進します。また、多職種連携による総合リハビリテーションの研究と地域展開のために、学内外との連携と協働に尽力致します。」とのコメントがありました。

国家試験日程のお知らせ

◆第116回医師国家試験

- ・試験日 令和4年2月5日(土)・6日(日)
- ・合格発表 令和4年3月16日(水)

◆第108回保健師国家試験

- ・試験日 令和4年2月11日(金・祝)
- ・合格発表 令和4年3月25日(金)

◆第111回看護師国家試験

- ・試験日 令和4年2月13日(日)
- ・合格発表 令和4年3月25日(金)

令和3年度看護学部臨床教授等の称号授与

令和3年7月14日(水)午前9時から、本院看護部管理室において、令和3年度看護学部臨床教授等の称号授与が行われました。今年度は、臨床教授4名、臨床准教授6名、臨床講師2名が選考され、坂本真理子看護学部長から辞令が交付されました。

本年度から、看護学部と病院看護部が「相互乗り入れ」を図ることで看護実践の総合的な質向上を目指す看護連携ユニフィケーション推進事業(英:unificationとは、「統合」等を意味する用語)を試行的に開始しており、学部学生に対する教育内容の質の向上はもとより、看護部職員のキャリア形成、看護学部教員の看護実践能力の向上が期待されています。



称号授与された看護部の皆さん

看護学部では、今後も看護部と連携・協働し、豊かな人間性と確かな看護実践能力を備えた看護職者の育成を進めて参ります。

令和3年度看護学部キャンドルセレモニー挙行

令和3年6月13日（日）午前10時から、「令和3年度看護学部キャンドルセレモニー」が2学年次生を対象に挙行されました。昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学生のみのお出向となりましたが、徹底した感染対策を講じることに より、今年度は、大学本館たちばなホールを使用し ての開催と致しました。

始めに、祖父江元 学長から、「患者さんは、色々 な背景を背負って病気と闘っており、全身で訴えよ うとしています。電子カルテの内容のみをみるの ではなく、必ず直接患者さんをよく観察してください。そして、皆さんがチーム医療の一員としてチームに 貢献し、活躍できる人材となることを願っていま す。」との式辞が述べられ、明治時代の海軍軍医総 監であった高木兼寛氏の“病気をみずして病人をみ よ”，“医師と看護師は車の両輪のごとし”という言 葉を紹介するとともに、「ぜひ良い実習を経験して 頑張ってください。」と述べられました。

続いて、坂本真理子看護学部長から、「相手に温 かい関心を寄せ、尊厳を持って関わっていくこと、 そのプロセスが看護です。自分自身を律し、常に万 全の体調で患者さんに向かい合うことができるよ う、ヘルスプロモーションを実践してください。」 との式辞が述べられ、最後に、本学部創設者の一人 である馬場昌子先生の“看護は生涯をかけた未知の 世界への感動的な挑戦だった”という言葉を紹介す るとともに、「奥深い看護道を皆さんとともに進ん でいきたいと思ひます。」と述べられました。

その後、学生代表14名がナイチンゲール像の灯火 を燭台に受け継ぎ、「なりたい看護師像」を発表し た上で、他の学生へ灯火を引き継ぎました。続いて、 学生実行委員が作成した動画「誓いの言葉」が放映 され、学生実行委員の「それぞれが抱いた想いを忘 れずに、まずは実習を意味あるものにして、全員で



式辞を述べる祖父江理事長



セレモニーの様子

立派な看護師を目指しましょう。」との言葉で締め くくられ、厳粛な雰囲気の中、キャンドルセレモニー を終了しました。

キャンドルセレモニー実施後の学生アンケートで は、「看護学を学ぶ者としての協調性、責任感を持 つことができ、また、決意を新たにできた。」との 回答が多く得られ、「看護学専門科目を本格的に学 ぶ前に、自覚と責任を持つとともに協調性を育み、 将来看護専門職者となるための決意を新たにす る。」というキャンドルセレモニーの趣旨が十分に理解さ れたセレモニーとなりました。

看護学部マナー・メイク講座の実施

令和3年6月28日（月）午前9時50分から、2学年次生を対象に「マナー・メイク講座」が開催されました。昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために遠隔講義形式で実施し、学生は自宅にてオンラインでの受講となりました。

始めに、青山恵美学生委員会委員が、「実習の大切さを認識し、実習に臨む心構えとマナー、看護職者として相応しいメイクについて学び、より良い実習を行うことができるようにしてもらいたい。」と述べられ、次いで、株式会社マイナビの講師から、看護職者としての基本的な態度、患者さんや指導者等とのコミュニケーションの方法及び社会人としてのマナー等についての講演が行われました。

続いて、株式会社POLAビューティーアドバイザーの方を講師に招き、医療現場に相応しい好印象を与える身だしなみ等について女性用と男性用に講

座を分け、実践を交えた講演を行っていただきました。女性向け講座では、流行りのメイクではなく、清潔感があり、柔らかい印象を与えるメイクについて紹介され、好感を持たれる自然で魅力的なメイクについて学びました。一方、男性向け講座では、清潔感溢れるスキンケアを中心に紹介され、化粧水・乳液・日焼け止めの使い方、むくみを取るマッサージ法等について学びました。

実施後に行ったアンケートでは、「実習前にマナーを学ぶことができて良かった。」、「言葉遣いや会話の仕方を見直すきっかけになった。」、「医療現場に求められるメイク方法や改善点が見つかった。」、「相手に好印象を与えるスキンケアについて学ぶことができた。」などの意見が寄せられ、実習に向け、また、将来、看護職者として働く学生にとって、有意義な講座となりました。

看護学部体験講義開催

令和3年7月29日（木）に愛知県立天白高等学校から高校生19名（1～3年生）及び教員1名が来学し、看護学部体験講義が開催されました。

当日は、坂本真理子看護学部長のあいさつから始まり、若杉里実広報委員会委員長による学部紹介に続いて、精神看護学の小久保知由起助教による「身近な人が病にかかった時の支え方」をテーマとした模擬講義が行われました。模擬講義では主に家族が病にかかった時について考え、病にかかった時に起こりうる反応や、それに応じた支え方などを学び、高校生の皆さんは自分の身近で起きた場合どのように家族を支えていくのかということについて思考を深めていました。また、その後のドクターヘリ見学では、突然ドクターヘリの出動要請が入ったことで、現場での緊張感と緊迫感に圧倒されていました。

参加された高校生の皆さんからは、「一つひとつ



体験講義の様子

の設備が整っていて、看護を学ぶのにすごく適していると思いました。」、「大学の施設や、授業を受けている学生さんを見ることができて、大学生活をイメージしやすかったです。」、「ドクターヘリを近くから見ることができて感激しました。」などの感想が寄せられ、参加者の皆さんにとって貴重な体験を通して有意義で充実した一日になったことと思われます。

看護学部就職支援講座の実施

令和3年6月22日（火）午前11時から、3学年次生を対象に「就職支援講座」が開催されました。昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため遠隔講義形式で実施し、学生は自宅にてオンラインでの受講となりました。

始めに、佐々木裕子学生委員会委員長が、「実習や演習を経験する中で、取り組みたい看護・目指したい看護を具体的にイメージして、自ら就職を希望する病院等の取り組みについて主体的に情報収集を行い、イメージに合う就職先を知ろうとする行動を取って欲しい。」と述べられ、次いで、青山恵美学生委員会委員から、本学卒業生の就職・進学状況や次年度の就職試験に向けたスケジュール等の説明がありました。その後、外部講師から厳しくなりつつ

ある看護職の就職状況と、中でも打ち勝っていくために必要なマナーや心構え、面接時の印象管理、医療現場での分別や意思を伝える方法等についてお話しいただきました。最後に、学生がグループに分かれて、受験者役と面接官役を交代しながら「模擬Web面接」を行い、面接での相手に与える印象などをお互いに確認し、今回の講座は終了しました。

実施後に行ったアンケートでは、「コロナ禍だからこそそのオンラインマナーを学ぶことができた。」「身だしなみや礼儀の重要性を知ることができた。」「将来を考え、自分を見つめ直すきっかけになった。」などの意見が寄せられ、就職試験に臨む学生にとって、十分な心構えと対策をとるための貴重な講座となりました。

大学院医学研究科学生表彰（優秀論文賞）

大学院医学研究科では、学生の研究活動の活性化を図るため、学生が顕著な業績を挙げた場合等の表彰制度を設けています。

この度、令和2年度に修了した大学院生のうち、各研究指導教授から学位論文について複数の推薦があった中、選考の結果、内科学講座（血液内科）の高見昭良教授から推薦のあった、金杉丈氏（臨床医学系内科学専攻）及び病理診断科の都築豊徳教授から推薦のあった、露木琢司氏（臨床医学系病理診断学専攻）の2名が「優秀論文賞」として表彰されることとなりました。

金杉氏は、大分大学を卒業後、愛知医科大学病院で臨床研修を受け、優秀研修医に選ばれました。眼前の患者を救う情熱や真理への探究心は誰よりも強く、柔軟な発想力と高い問題解決能力、人格を有し、皆から慕われています。今回、金杉氏は多発性骨髄腫の薬剤耐性機序を解明し、新規治療標的候補を同定し、非常に評価の高い雑誌（Cancer Science）に掲載されました。本研究を基に、令和3年科研費若手研究に研究代表者として採択され、更なる発展も期待されます。



表彰学生（左から、金杉氏及び露木氏）

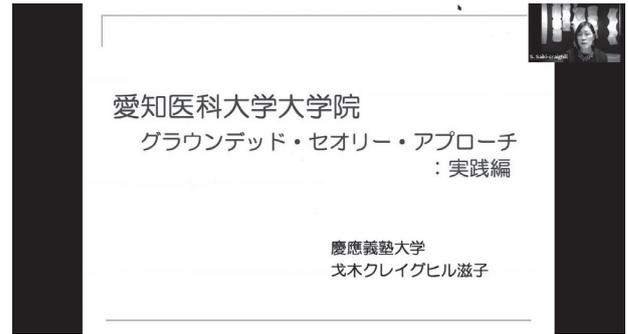
露木氏の研究内容である、成人に発症する特発性消化管穿孔の原因は、長い間、原因不明とされてきました。今回の研究により、その20%程度は消化管の固有筋層が欠損していたことに由来することを系統的に明らかにしました。更には、過去の文献も含め、その好発部位も明らかにし、また、その定義についてもはじめて提唱しました。以上の見解は世界的に初めて行われた研究で、それ故に外科病理学で最も権威がある雑誌（The American Journal of Surgical Pathology）に採択されました。本研究は、愛知医科大学の研究レベルの高さを世界に示すことができた有意義な研究と考えられます。

今後も、表彰される学生が続くことを期待します。

看護学研究科特別講義開催

令和3年7月4日（日）午後1時30分から、慶應義塾大学看護医療学部健康マネジメント研究科教授の戈木クレイグヒル滋子先生をお招きし、「グラウンデッド・セオリー・アプローチ：実践編」というテーマで、オンラインによる大学院特別講義が開催されました。【写真】

戈木先生には、3年前「グラウンデッド・セオリー・アプローチ（GTA）入門」と題して講義をいただいております。多くの要望から今回の実践編が実現されました。オンデマンド講義と模擬事例を使った事前課題に取り組んで、ライブ講義を受けるという新たな試みにより、データから概念を導き出すGTAの具体的なプロセスを学ぶことができました。参加者からは、「事前課題に取り組んでから講義に臨んだことで、オープンコーディングのプロセスが良く分かった。」、「GTAに関心があったが難しいと諦めて



いた。講義を聞いて挑戦したいと思った。」など、GTAの理解が進んだという感想が多く寄せられました。

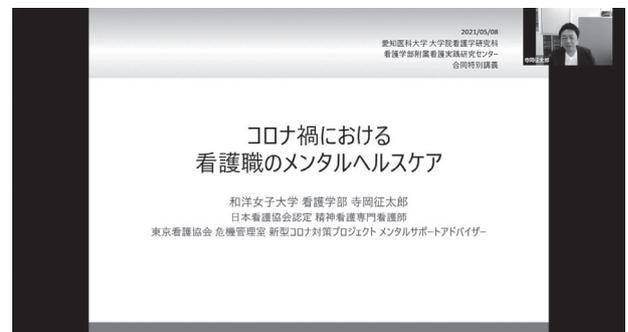
また、戈木先生の和やかな語りの中で、「研究は新たな知見を生み出すことであり、データと真摯に向き合い、研究者という道具の精度を上げていく努力が重要である。」という言葉は、参加者の心に響き、勇気付けるものとなりました。

看護学研究科・看護実践研究センター合同特別講義開催

令和3年5月8日（土）午後1時30分から、和洋女子大学看護学部准教授の寺岡征太郎先生をお招きし、「コロナ禍における看護職のメンタルヘルスケア」というテーマで、オンラインによる大学院看護学研究科・看護実践研究センター合同特別講義が開催され、約200人にご参加いただきました。【写真】

前半の「メンタルヘルスを維持する工夫：セルフケア」では、看護職のメンタルヘルスの状況とメンタルヘルスに影響を及ぼす要因を踏まえ、具体的なセルフケアの取り組みと、今だからできることについて、お話しいただきました。参加者からは、「スタッフ・管理職ともに、まず自身のメンタルヘルスのセルフケアが重要であり、小さなことからセルフケアを始めていきたい。」という感想が多く寄せられました。このような時期だからこそ、「できない看護」から「トライしてみる看護」を実践していくお話が印象的でした。

後半の「組織で取り組むメンタルヘルスケア」では、COVID-19対応中の看護職を守るメンタルサ



ポートの二本柱として、現実的な問題解決に向けたサポートと感情の発散などの情緒的なサポートを中心に、具体的なケースを踏まえた講義が展開されました。参加者からは、スタッフとの温かいコミュニケーションの重要性、不満の中に潜む「不安」に目を向け、不安の表出や共有を図る取り組みの必要性についての感想が多く寄せられました。

COVID-19感染症拡大が続き、看護職のメンタルヘルスを維持していくことは決して容易なことではありませんが、そのような状況の中で、希望を見出すことができる講義となりました。

看護実践研究センター 地域連携・支援部門 「みんなではじめよう！おやこ防災座談会」開催

令和3年5月24日（月）午前10時から、防災に関わる長久手市の市民団体「子づれ備災クラブ」の主催により、子どもを連れて避難所に行くことになった時、自分たちに何ができるかを考えるために、「みんなではじめよう！おやこ防災座談会」がオンラインにて開催されました。

本学看護学部附属看護実践研究センター地域連携・支援部門の協力のもと、東日本大震災や熊本地震の際に避難所で実際にママたちが困ったこと・実

際に取り組んだことなどが紹介され、日頃からのママ同士のコミュニケーションや、地域のイベント等への積極的な参加による、行政や他団体の人と「顔つなぎ→顔見知り→顔なじみ」の関係づくりが提案されました。

「本音トーク」では、参加者で様々な不安や備えの工夫等を共有し合い、もしもの時を前に、「今できること」を考える機会となりました。

看護実践研究センター キャリア支援部門 令和3年度看護研究支援セミナー開催

令和3年6月26日（土）及び7月10日（土）の2回にわたり、両日午後1時から本学看護学研究科の佐藤ゆか教授により、令和3年度看護研究支援セミナーがオンラインにて開催されました。

第1回目は、「研究デザインを知ろう～佐藤さんのはじめての研究から～」というテーマで、講師である佐藤教授の初めての研究体験を基に、研究疑問とはどのようなものか、研究テーマの絞り込み方、研究目的の設定や枠組みについて等、初級者の方でも分かりやすい内容のセミナーでした。37名の方が参加され、満足度も高く、理解しやすかったと好評でした。「事例を用いることで分かりやすかった。」「佐藤さんの研究を見ることで、より具体的に理解できた。」などの感想が多く寄せられました。

第2回目は、「文献を正しく読んで活用しよう」というテーマで、文献検索の必要性や検索方法、実際の論文を使ったクリティークの方法等について講



佐藤教授によるセミナーの様子

義いただきました。33名の方が受講され、講義内容について理解しやすかったと好評でした。「実際の論文を使用した解説が分かりやすかった。」「医中誌での検索方法の解説は、有り難かった。」などの感想が寄せられ、学びの大きいセミナーとなりました。

看護実践研究センター キャリア支援部門 令和3年度臨床看護セミナー開催

令和3年7月31日（土）午後1時から、臨床看護セミナー「看護のためのフィジカルアセスメント～根拠に基づいた看護実践に活かす～」がオンラインにて開催されました。

本セミナーは、本学の医師と認定看護師による講義の2部構成となっており、前半は、周術期集中治療部の藤田義人教授（特任）から呼吸・循環の基礎知識、急変の前駆症状を正しくアセスメントするために必要な知識等についての定義や症例に基づく内容を講義いただきました。後半は、集中ケア認定看護師であるGICUの水谷卓史看護主任からバイタルサインとは？、フィジカルイグザミネーションスキルを理解する等を講義いただき、根拠に基づいた看護実践に活かすことができる内容でした。

参加者数は45名で、病院や訪問看護ステーションから幅広い年代の方々にご参加いただきました。講



左から、藤田教授及び水谷看護主任

義終了後はたくさんの質問が寄せられ、本セミナーに対する受講生の関心の高さが伺えました。また、受講後のアンケート結果からもセミナーの満足度は高く、「呼吸の異常についての説明がとても分かりやすかった。」「根拠に基づいた説明で分かりやすかった。」「普段あやふやにしていた部分が解消できた。」などの感想が寄せられ、学びの大きいセミナーとなりました。

道勇 学病院長 所信表明

令和3年5月13日（木）午後5時30分から、大学本館たちばなホールにおいて、道勇学病院長による所信表明が開催されました。

多くの職員が出席し、道勇病院長から理念の実現に向かう方略の基盤強化として3点挙げられました。1点目は病院収益の安定的増加について、ポストコロナにおける患者数や診療単価の目標値、財政基盤改革プロジェクトとの連動による診療報酬算定請求の適正化・増加案が提示されました。2点目は医療安全・質担保の徹底について、全職員の意識と情報の共有、ガバナンスの重要性を強調されました。3点目の有能な医療人の育成については、大学との共働による優秀な人材確保の推進が挙げられました。

また、医師の働き方改革はマストであり、その具体的な対応策について説明されるとともに、副院長



所信表明する道勇病院長

の職務を明確に規定し円滑な管理体制とすることを述べられました。

最後に、職員に対し「長引く新型コロナ禍の烈風に晒されつつも、職員一丸となって新型コロナ診療と通常診療との両立を果たしていこう。」と締めくくられました。

令和3年度オープンホスピタルの中止

オープンホスピタルは、昨年度は残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となりました。今年度につきましても、未だ新型コロナウイルス感染症の終息が見込まれないことから、安全を優先し、開催を中止とすることが決定されました。

来年度以降、開催が可能な情勢に落ち着きましたら、改めてご案内をさせていただきます。

オープンホスピタルを楽しみにしてくださる方々には申し訳ありませんが、ご理解ご協力いただきますようお願い致します。

大学病院 ～新センターのご紹介～

頭蓋底外科センター

頭蓋底外科センター・部長 藤本 保志

本院に令和3年6月1日付けで、「頭蓋底外科センター」が設置されました。

顔面・頭部の最深部位である頭蓋底は、脳、目、耳、鼻、口、喉などの機能を司る神経や血管が集中しており、ここに発生する腫瘍、奇形、外傷等の様々な疾患を扱う頭蓋底外科の手術は脳や神経を傷つけずに頭蓋底に到達するための大変高度な技術が要求されます。

本院には、脳神経外科、耳鼻咽喉科、形成外科、

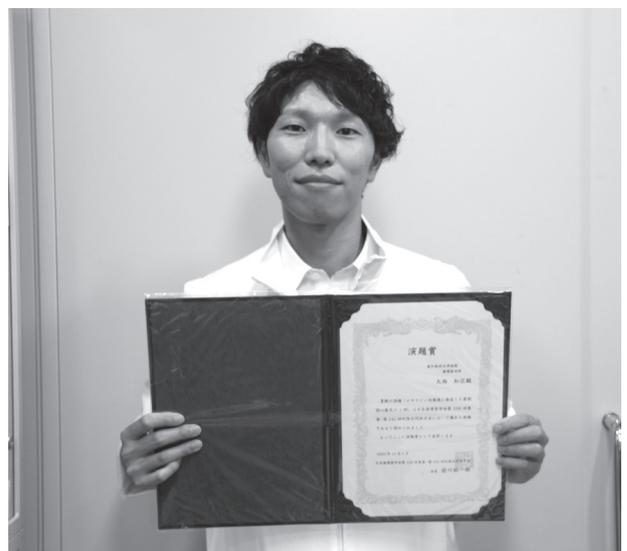
眼形成・眼窩・涙道外科があり、各領域のエキスパートが揃い、良好な治療成績が注目を浴びています。また、頭蓋底外科に関連する診療科の豊富な経験と高度な技術を集約したチーム医療を実践することにより、難治癌、難治疾患の患者が適切な治療を受ける機会を増やすとともに、頭蓋底外科領域を目指す若手外科医を招聘して教育研修する機会を確保することができ、本院を日本における頭蓋底外科治療の拠点施設へと発展させるものと期待されています。

循環器内科 大西 知広助教（医員助教） 日本循環器学会第156回東海・第141回北陸合同地方会演題賞受賞

循環器内科の大西知広助教（医員助教）【写真】が、令和2年11月1日（日）にオンラインにて開催された日本循環器学会第156回東海・第141回北陸合同地方会において、演題賞を受賞しました。

これは、同会における演題発表「メサラジン内服後に発症した薬剤性心筋炎の1例」が優れた演題として高く評価されたものです。

受賞された大西助教（医員助教）からは、「日常臨床で経験した1例報告ではありますが、症例の周知ができたことだけでなく、演題賞を頂き光栄に思います。今後も多方面において精進していく所存でございます。」との感想がありました。



循環器内科 縄野 友明助教（専修医） 第27回日本血管内治療学会学術総会優秀演題賞受賞

循環器内科の縄野友明助教（専修医）【写真】が、令和3年7月9日（金）・10日（土）の2日間にわたりホテルエルセラーン大阪での会場及びWeb配信によるハイブリッド方式にて開催された第27回日本血管内治療学会学術総会において、優秀演題賞を受賞しました。

これは、同会における一般演題での発表「腎機能別に見たFFRとRFRの診断精度に関する検討」が高く評価され、優秀演題賞として選定されたものです。

受賞された縄野助教（専修医）からは、「今回名誉ある賞を受賞することができ、大変光栄に思います。天野哲也主任教授、高島浩明教授（特任）始め、熱心に指導してくださいました先生方には深く感謝しています。若輩の身ではありますが、今回の経験



を糧に更に一層精進したいと思います。」との感想がありました。

愛知医大サービス株式会社 飲食店におけるテイクアウト事業紹介

愛知医大サービスでは、この1年以上に亘る新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きく、運営している売店やレストラン、喫茶店も苦戦を強いられています。ソーシャルディスタンスを踏まえたアクリル板の設置、客席数の削減、テーブル等の除菌清掃など、全スタッフが日々協力しコロナ対策に努めています。

少しでも職員や患者さんにご利用いただくことができるよう、飲食店全店舗でテイクアウトを行っており、「カフェ・ド・クリエ」、「CoCo壺番屋」、「スガキヤ」、「PIZZA AQUA」の利用者が増えてきて～ テイクアウト例 ～



CoCo壺番屋
(フードコート内)



カフェ・ド・クリエ
(中央棟2階)



外来レストラン「シトラス・たちばな」
(中央棟2階)

います。

また、中央棟2階にある外来レストラン「シトラス・たちばな」では、初めての取り組みであるテイクアウトを開始しました。昼食だけではなく、夕食の持ち帰りとしても利用できるように、各種惣菜や店内メニュー等を充実させています。最近では、イギリスの有名メーカー「コスタ」のコーヒーを取り入れ、好評いただいております。是非一度、ご利用されてみてはいかがでしょうか。

スタッフ一同、お待ちしております。

学 位 授 与

◆大学院医学研究科



梶田 裕加

学位授与番号 乙第411号

学位授与年月日 令和3年6月10日

論文題目：「A longitudinal change of syndecan-1 predicts risk of acute respiratory distress syndrome and cumulative fluid balance in patients with septic shock: a preliminary study (血中シンデカン-1値推移による急性呼吸窮迫症候群および累積体液バランスの予測：敗血症性ショック患者の検討)」

令和3年度科学研究費助成事業申請状況

研究種目	申請件数 (件)	申請金額 (千円)
新学術領域研究 (研究領域提案型)	3	9,500
基盤研究 (B) (一般)	14	102,602
基盤研究 (C) (一般)	129	220,716
挑戦的研究 (開拓)	1	7,000
挑戦的研究 (萌芽)	5	14,015
若手研究	48	76,957
学術変革領域研究 (A) (公募研究)	2	6,000
学術変革領域研究 (B)	2	30,000
研究活動スタート支援	6	7,235
合 計	210	474,025

※令和3年度分の申請金額 (令和3年7月1日時点)

研究助成等採択者

◇公益財団法人第一三共生命科学研究振興財団

海外共同研究支援助成

・氏名 佐藤麻紀 (IR室・講師)
 研究題目 医学部学生の睡眠習慣, 生活リズム, 時計遺伝子発現の国際比較
 助成金額 500,000円

◇公益財団法人東洋医学研究財団 研究調査助成

・氏名 松井卓哉 (生理学講座・講師)
 研究題目 ミカン科Murraya euchrestifolia Hayataから単離・構造決定した新規カルバゾール類の肺腺癌治療に向けた基礎的検討
 助成金額 600,000円

・氏名 Vu Quang Lam (研究員)
 研究題目 ベトナム伝統的薬用植物由来化合物による抗酸化活性と抗腫瘍活性の増強
 助成金額 600,000円

◇公益信託第24回日本医学会総会記念医学振興基金

研究助成金

・氏名 乾匡範 (感染・免疫学講座・講師)
 研究題目 TLR4を標的とした免疫賦活効果の分子基盤の解明とワクチン応用へ向けた基礎研究
 助成金額 1,000,000円

・氏名 佐藤麻紀 (IR室・講師)
 研究題目 コロナ禍での医学部学生の生活習慣および活動量の変化
 助成金額 1,000,000円

令和3年度厚生労働科学研究費補助金交付決定

令和3年度厚生労働科学研究費補助金が採択され, 次のとおり交付決定がありました。

(金額単位: 千円)

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	三 嶋 廣 繁 医 学 部 感染症科, 教授	7,500	1,000	性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	中 村 二 郎 医 学 部 先進糖尿病治療学寄附講座, 教授	4,200	1,260	糖尿病神経障害・糖尿病足病変の診断ガイドラインならびに管理法の確立
難治性疾患政策研究事業	奥 村 彰 久 医 学 部 小児科学, 教授	3,000	900	早産児ビリルビン脳症の診療指針の改訂および包括的診療体制の確立
難治性疾患政策研究事業	曾 根 淳 加齢医学研究所 講 師	2,000	600	神経核内封入体病 (NIID) の臨床疫学調査および疾患概念確立

- ・ 令和3年7月1日時点の情報を掲載
- ・ 氏名は, e-Rad (府省共通研究開発管理システム) 研究者登録名にて記載
- ・ 「交付申請書」を基に作成

令和3年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金) 交付決定

令和3年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）が採択され、次のとおり交付決定がありました。

(金額単位：千円)

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
新学術領域研究 (研究領域提案型) (補助金)	武内恒成 医学部 生物学, 教授	2,400 (継続)	720	細胞外環境とシナプスコネクトによる超適応機能－脊髄損傷後の超回復とAIトレース－
〃	武内恒成 医学部 生物学, 教授	2,200	660	人工シナプスコネクターによるシンギュラリティシナプスの人為的構築とその制御
基盤研究(B) (補助金)	岡田洋平 医学部 内科学(神経内科), 准教授	4,800 (継続)	1,440	疾患iPS細胞を活用した液性因子による運動ニューロン疾患の早期病態解明
〃	曾根淳 加齢医学研究所 講師	2,800 (継続)	840	神経核内封入体病(NIID)の原因遺伝子同定と病態解明
〃	小林孝彰 医学部 外科学(腎移植外科), 教授	4,600 (継続)	1,380	治療から予防へ：エピトープ/パラトープ解析に基づく革新的免疫制御法の創出
〃	渡辺秀人 分子医学研究所 教授	4,900	1,470	炎症と腫瘍の組織改築：プロテオグリカンとその分解産物を介した細胞間クロストーク
〃	武内恒成 医学部 生物学, 教授	5,500	1,650	新規人工シナプスコネクターと再生環境整備による超回復－神経再生への新規治療展開－
〃	井上真輔 医学部 学際的痛みセンター, 准教授(特任)	1,200	360	ホルモンの変調に起因する運動器の痛みを解明する多面的集学研究
〃	林櫻松 医学部 公衆衛生学, 教授(特任)	4,300	1,290	GWASで同定した新規膀胱がん感受性遺伝子GP2に関する分子遺伝疫学研究
〃	菊地正悟 医学部 公衆衛生学, 教授	4,700	1,410	分子疫学研究による胆のうがんリスク要因の解明
特別研究員奨励費 (補助金)	伊藤卓治 客員研究員	1,200 (継続)	360	iPS細胞による革新的神経・筋共培養システムを用いた運動ニューロン疾患の病態解析
基盤研究(C) 一般(基金)	犬飼洋子 医学部 生理学, 講師	(再延長)	0	辛味性(口腔内TRPV1活性化)発汗による選択的脳冷却の検討：熱中症予防への応用
〃	杉浦信夫 客員研究員	(再延長)	0	酵素合成コンドロイチン硫酸のナノ粒子複合体の調製と、CS受容体の探索と機能解析
〃	乾匡範 医学部 感染・免疫学, 講師	(再延長)	0	小胞体膜分子Nogoによる病原性自己抗体産生の新たな制御機構の解明
〃	倉橋宏和 医学部 小児科学, 講師	(再延長)	0	グリアに着目した急性脳炎・脳症の病態解明と新規治療法の開発
〃	矢野智紀 医学部 外科学(呼吸器外科), 教授(特任)	(再延長)	0	女性ホルモンが非浸潤性肺腺癌に及ぼす影響：新たな肺癌治療法の確立を目指して
〃	大須賀浩二 看護学部 病態治療学, 教授	(再延長)	0	慢性硬膜下血腫被膜への好酸球誘導因子の解明と新たな治療法の確立

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究 (C) (一般) (基金)	吉川和宏 研究創出支援センター 特務教授	(再延長)	0	子宮頸がんを発生させるHPVのE7蛋白を標的とした細胞内分子標的療法の開発
〃	小川徹也 医学部 耳鼻咽喉科学, 教授 (特任)	(再延長)	0	頭頸部がん治療における新たなる免疫化学療法の開発 - CTLと抗がん薬併用の意義
〃	三木研作 看護学部 病態保健学, 教授	(再延長)	0	顔から笑いを抽出するメカニズムの解明: 対人コミュニケーションへの応用を目指して
〃	小島徳子 看護学部 母子看護学, 講師	(延長)	0	NICU入院児を持つ褥婦への足湯による乳頭・乳輪の状態の定量化と搾乳に及ぼす効果
〃	佐藤麻紀 医学部 IR室, 講師	(延長)	0	小児におけるLED光暴露がホルモンリズムおよび時計遺伝子の発現に及ぼす影響
〃	丹羽淳一 医学部 脳卒中センター, 教授 (特任)	(延長)	0	疾患特異的iPS細胞を用いたポリグルタミン病創薬スクリーニングシステムの開発
〃	大宝和博 客員研究員	(延長)	0	脳血管奇形に対するフレイムレス光子線高精度照射法の精度向上と低侵襲化の検討
〃	奥村彰久 医学部 小児科学, 教授	(延長)	0	MERS - 異常言動スペクトラムの分子生物学的基盤の解明
〃	伊藤恭彦 医学部 内科学 (腎臓・リウマチ膠原病内科), 教授	(延長)	0	腹膜透析における除水不全, 腹膜機能障害の病態解明と新たな治療戦略
〃	高見昭良 医学部 内科学 (血液内科), 教授	(延長)	0	造血細胞移植関連遺伝子多型機能に基づく免疫制御性マイクロRNAの探索
〃	藤田義人 医学部 周術期集中治療部, 教授 (特任)	(延長)	0	RNAiを用いた脳水チャネル機能調節による脳浮腫抑制の臨床応用
〃	武山直志 医学部 救命救急科, 特命教授	(延長)	0	多発外傷時における白血球遺伝子発現プロファイル解析: T-iPS細胞療法への応用
〃	津田雅庸 災害医療研究センター 教授 (特任)	(延長)	0	敗血症におけるInnate Lymphoid Cellの機能解析
〃	宮地茂 医学部 脳神経外科学, 教授	(延長)	0	脳血管内治療支援ロボットの開発
〃	梅村朋弘 医学部 衛生学, 講師	(延長)	0	南アジアにおける大気汚染と健康障害: 都市と農村の比較およびマスク介入の効果
〃	鈴木孝太 医学部 衛生学, 教授	(延長)	0	胎児期からのライフコースを考慮した, 生活習慣病発症に関わる要因の疫学的検討
〃	佐藤ゆか 看護学部 感染看護学, 教授	(延長)	0	抗微生物薬物療法に関する看護実践と看護継続教育の全国実態調査
〃	山幡朗子 看護学部 基礎看護学, 准教授	(延長)	0	過敏性腸症候群患者に対する生活習慣改善を促す看護援助プログラム作成に関する研究
〃	荻野朋子 看護学部 老年看護学, 准教授	(延長)	0	写真療法が軽度から中等度の認知症高齢者のQOLに及ぼす効果に関する研究
〃	阿部恵子 看護学部 臨床実践看護学, 教授	(延長)	0	4年間の地域包括的ケア体験学習プログラムの構築と看護OSCEによる評価

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究 (C) (一般) (基金)	青野 修 一部 医 学 部 疫学・ケミカル・環境学 准教授	(延長)	0	質問紙への回答に対する信頼度評価法の開発と疼痛問診システムへの応用
〃	新井 健 一部 医 学 部 運動療育センター, 准教授	700 (継続)	210	腸内細菌叢の痛みの認知や調節機能におよぼすメカニズム
〃	山本 恵美子 看護学 部 基礎看護学, 准教授	500 (継続)	150	「介護安全」のための職種特性を活かした連携安全力の測定と教育実践
〃	仙石 昌也 医 学 部 物理学, 准教授	400 (継続)	120	クラウドを利用した協働作業プロセスの定量的指標の開発と評価への応用
〃	藤内 玄規 ALS治療研究開発部門 助 教	1,100 (継続)	330	異常タンパク分解系を標的とした運動ニューロン疾患治療薬の開発
〃	猪子 誠 人部 医 学 部 病理学, 講師	1,000 (継続)	300	上皮組織が階層分化する仕組みの細胞生物学的理解
〃	佐藤 元彦 医 学 部 生理学, 教授	1,000 (継続)	300	G蛋白活性調節因子制御による肺高血圧の治療
〃	笠井 謙次 医 学 部 病理学, 教授	700 (継続)	210	トリプルネガティブ乳癌における新規核内蛋白ネットワークによる細胞増殖特性
〃	山崎 達也 医 学 部 感染・免疫学, 講師	1,400 (継続)	420	自然免疫受容体に対するアゴニスト抗体のワクチンアジュバントへの応用
〃	池野 正史 医 学 部 生物学, 准教授	700 (継続)	210	悪性グリオーマ治療の製剤化に向けたHSVtk遺伝子導入細胞株の構築
〃	牛田 享宏 医 学 部 学際的痛みセンター, 教授	900 (継続)	270	骨格筋再生による疼痛性癒痕治療法の研究：間葉系幹細胞の選択と細胞外環境の解析
〃	道 勇 学 部 医 学 部 内科学 (神経内科), 教授	700 (継続)	210	疾患iPS細胞を用いた球脊髄性筋萎縮症の骨格筋病態の解明
〃	中村 亮 一部 医 学 部 内科学 (神経内科), 講師	1,000 (継続)	300	候補遺伝子アプローチによる筋萎縮性側索硬化症病態関連遺伝子の探索
〃	伊藤 清 顕部 医 学 部 内科学 (肝胆腸内科), 教授 (特任)	1,100 (継続)	330	B型肝炎再活性化や発癌の原因となるエンベロープ蛋白質追加糖鎖修飾の分布と機能解析
〃	高村 祥子 医 学 部 感染・免疫学, 教授	900 (継続)	270	脂質会合タンパクの動脈硬化における役割解明と治療応用
〃	細川 好孝 医 学 部 生化学, 教授	900 (継続)	270	胸膜中皮腫の予後改善を目指した診断マーカーと阻害化合物の探索
〃	勝野 敬之部 医 学 部 メディカルセンター, 准教授	1,100 (継続)	330	補体活性と糖鎖異常に着目した二次性血栓性微小血管症 (TMA) の病態解明
〃	花村 一朗 医 学 部 内科学 (血液内科), 教授 (特任)	1,100 (継続)	330	ゲノム編集によるFLT3変異改変ヒト白血病細胞の作製と新規治療法の探索
〃	松下 宏部 医 学 部 産婦人科学, 准教授	1,200 (継続)	360	若年女性に増加している子宮内膜症は閉経後骨粗鬆症の危険因子か？
〃	中野 正吾 医 学 部 外科学 (乳腺・内分泌外科), 教授	800 (継続)	240	バーチャルリアリティ技術を用いたMRI非腫瘍性乳癌手術支援システムの開発

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) (一般)(基金)	畑山直之 医学部 解剖学, 准教授	1,300 (継続)	390	ガスメディエータ送達技術の拡大適応ドナー臓器への応用
〃	シバズダラン カルナン 医学部 生化学, 講師	1,100 (継続)	330	ゲノム医療を目指した遺伝子異常に基づく悪性中皮腫発症機構の解明と治療標的の探索
〃	畠山登 医学部 麻酔科学, 教授(特任)	1,100 (継続)	330	敗血症性心筋症の病態生理学的解明およびカテコラミン類修飾作用の研究
〃	高木潤子 医学部 内科学(内分泌代謝内科), 教授(特任)	200 (継続)	60	家族性膝蓋骨無形成症の新規原因遺伝子の同定と疾患発症機序の解析
〃	三輪祐子 医学部 腎疾患・移植免疫学寄附講座, 助教	800 (継続)	240	腎移植におけるBKウイルスモニタリングシステムによるグラフト長期生着への取り組み
〃	瓶井資弘 医学部 眼科学, 教授	600 (継続)	180	虚血網膜の再灌流メカニズムの解明
〃	池上啓介 医学部 生理学, 講師	500 (継続)	150	眼圧概日リズムの分子制御機構の解明
〃	篠田かおる 看護学部 基礎看護学, 准教授	200 (継続)	60	医療器材及び医療従事者の手指の洗浄・殺菌に適したファインバブルの条件に関する研究
〃	心光世津子 看護学部 精神看護学, 教授	600 (継続)	180	学際的アプローチによる精神科病棟看護における自己決定支援の視点・要件の可視化
〃	白井裕子 看護学部 在宅看護学, 准教授	900 (継続)	270	野宿生活者が路上にとどまる理由-野宿生活の長期化に影響を与える野宿生活者の経験-
〃	中野雄介 医学部 循環器内科, 准教授(特任)	400 (継続)	120	中性脂肪蓄積心血管症に対する特異的栄養療法の動脈硬化抑制効果に関する検討
〃	笹倉寛之 医学部 生物学, 特別研究助教	900 (継続)	270	補酵素PQQで惹起されるレドックスシグナルによる細胞外マトリックスリモデリング
〃	山森孝彦 医学部 外国語, 教授	1,400 (継続)	420	英語医療面接評価で着目する定量的観察可能な要素の抽出とキャリブレーション動画作成
〃	藤田京子 医学部 眼科, 講師	500 (継続)	150	薄暮時や夜間における視覚障害者の行動評価と視機能との関連
〃	宮本淳 医学部 心理学, 准教授	400 (継続)	120	協働学習の心理的成果の測定
〃	幡野その子 分子医科学研究所 助教	1,100 (継続)	330	コンドロイチン硫酸による免疫応答制御:糖鎖構造とシグナル伝達機構
〃	小西裕之 医学部 生化学, 教授(特任)	1,400 (継続)	420	臨床応用を目指す高効率・高精度なCRISPRノックイン法の確立
〃	尾張慶子 医学部 学際的痛みセンター, 助教	200 (継続)	60	若年慢性疼痛における睡眠習慣の調査およびアセスメントツールとしての睡眠検査の検討
〃	山村彩 医学部 生理学, 講師	1,300 (継続)	390	肺高血圧症リモデリングに関与するカルシウム感受性受容体の新規下流シグナルの探索
〃	山口奈緒子 医学部 薬理学, 准教授	1,400 (継続)	420	ストレス応答の異常な持続的亢進をもたらす脳内機序の解明

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) (一般)(基金)	宮原弘明 加齢医学研究所 講師	400 (継続)	120	MELAS剖検脳を用いた脳卒中様発作部位のミトコンドリア機能解析
〃	上田博子 医学部 周産期母子医療センター、助教	1,100 (継続)	330	副腎不全とグリアに注目した脳室周囲白質軟化症の病態解明と新規予防法の確立
〃	倉橋宏和 医学部 小児科学、講師	900 (継続)	270	MYRF遺伝子を起点とした発熱時言動異常の病態解明
〃	中出幸臣 医学部 内科学(肝胆腸内科)、教授(特任)	1,200 (継続)	360	コノフィリンによるNASH進展抑制機序の解明
〃	伊藤理部 医学部 内科学(呼吸器・アレルギー内科)、教授	900 (継続)	270	機械感受性チャネルPiezo1とメカノセンサーを標的とした呼吸器疾患の病態解明
〃	中山享之部 医学部 中央臨床検査部、教授(特任)	1,100 (継続)	330	脂肪組織由来間葉系幹細胞-造血幹細胞における代謝経路解析：抗加齢作用に注目して
〃	小松孝行 医学部 感染・免疫学、准教授	1,000 (継続)	300	抗インフラマソーム能欠失型ウイルスを利用した新しいウイルス予防・治療法の研究
〃	加藤義郎 医学部 メディカルセンター、教授(特任)	800 (継続)	240	糖尿病性多発神経障害の病態におけるATP感受性Kチャンネルの役割の解明
〃	神谷英紀 医学部 内科学(糖尿病内科)、教授	1,300 (継続)	390	糖尿病性虚血性疾患に対する体性幹細胞由来分泌因子を用いた治療法の開発
〃	中村二郎 医学部 先進糖尿病治療学寄附講座、教授	1,500 (継続)	450	糖尿病性多発神経障害におけるO-GlcNAc修飾の役割の解明
〃	石山宏平 医学部 外科学(腎移植外科)、准教授(特任)	1,000 (継続)	300	ES/iPS細胞移植を見据えた複数回隣島移植後の免疫応答の解明と制御法の開発
〃	馬嶋剛 医学部 泌尿器科学、准教授	1,300 (継続)	390	骨格筋由来マイオカインによる臓器連関を標的した排尿筋低活動の新規創薬研究
〃	林寿来 医学部 生理学、講師	1,200 (継続)	360	加齢黄斑変性における再生療法に向けた細胞外小胞の機能解明
〃	古川洋志 医学部 形成外科、教授	900 (継続)	270	細胞外微小環境の制御による次世代のリンパ節移植術の開発
〃	宮崎英隆 医学部 眼形成・眼窩・涙道外科、准教授	300 (継続)	90	細菌由来メンブレンヴェシクルの高感度検出法の開発と慢性炎症性血管疾患からの同定
〃	青木瑠里 医学部 医学教育センター、講師	800 (継続)	240	「医学教育における学修支援の在り方についての探索的研究」
〃	川合紗世 医学部 公衆衛生学、講師	1,000 (継続)	300	次世代へのピロリ菌感染防止による胃がん予防に向けた経済分析
〃	小川匡之 医学部 法医学、講師	1,100 (継続)	330	新規前処理法を用いた血中薬毒物LC-MS/MS分析法開発とその評価法の検討
〃	林さえ子 看護学 成人看護学、講師	800 (継続)	240	前立腺がん治療に伴う性功能障害を支える患者と家族への情報提供ツールの検討
〃	山本弘江 看護学 母子看護学、准教授	800 (継続)	240	子育て期の家族のメンタルヘルスに着目した支援とソーシャルキャピタルのあり方の検討

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究 (C) (一般) (基金)	森田博之 医学部 内科学 (内分泌・代謝内科), 准教授	800 (継続)	240	家族性先端巨大症罹患アスリートの発掘 - 新規原因遺伝子同定への学際的アプローチ
〃	伴野勸 医学部 感染・免疫学, 助教	1,100 (継続)	330	奇数鎖脂肪酸による骨代謝制御メカニズムの解明
〃	森下啓明 医学部 糖尿病内科, 講師	1,500	450	CIDE-A - AMPK経路を標的とした小胞体ストレス関連疾患治療薬の探索
〃	都築豊徳 医学部 病理診断科, 教授	2,200	660	前立腺導管癌の分子生物学的特徴及び治療予測への人工知能の応用
〃	鈴木進 研究創出支援センター 准教授	1,000	300	制御性T細胞除去とTGF-b阻害剤を併用した新たながん免疫療法の開発
〃	岩崎靖 加齢医学研究所 教授	1,300	390	V180I遺伝性クロイツフェルト・ヤコブ病の発症と病態進展に関わる因子の解明
〃	丹羽淳一 医学部 脳卒中センター, 教授 (特任)	1,300	390	iPS細胞を用いた運動ニューロン疾患の神経筋シナプス機能の解析
〃	岡田尚志郎 医学部 薬理学, 教授	900	270	うつ病での糖代謝異常の脳内調節機構におけるトロンボキサンA2の役割
〃	大宝和博 客員研究員	1,500	450	転移性脳腫瘍の病態に適合した物理的・生物学的原体性の高い高精度光子線照射法の確立
〃	岩山秀之 医学部 小児科学, 講師	1,200	360	MCT8異常症の新規診断法と治療法の開発および政令指定都市を対象とした大規模解析
〃	奥村彰久 医学部 小児科学, 教授	1,200	360	乳児期発症てんかんの遺伝学的解析に基づく精密医療の基盤構築
〃	垣田博樹 医学部 周産期母子医療センター, 講師	1,200	360	低体温療法を中心としたグリアの機能制御による新生児脳障害の包括的な新規治療戦略
〃	石本卓嗣 医学部 腎臓・リウマチ膠原病内科, 准教授 (特任)	1,600	480	フルクトース代謝を標的とした糖尿病性腎臓病の病態解明と新規治療法の開発
〃	神谷圭介 医学部 腎臓・リウマチ膠原病内科, 助教 (医員助教)	1,000	300	腹膜透析におけるガス状伝達物質を用いた新たな腹膜劣化予防・治療法の開発
〃	伊藤恭彦 医学部 内科学 (腎臓・リウマチ膠原病内科), 教授	1,300	390	内皮細胞Glycocalyxをターゲットとした腎疾患の新たな治療戦略の確立
〃	太田明伸 医学部 生化学, 講師	1,200	360	PBKを標的とする抗骨髄腫薬導出に向けた創薬プラットフォームの構築と分子機能解析
〃	高見昭良 医学部 内科学 (血液内科), 教授	1,300	390	ADAMTS13遺伝子多型ゲノム編集血管内皮細胞の作製と新規白血病治療法の探索
〃	恒川新 医学部 糖尿病内科, 准教授	1,300	390	自己免疫性モノアミン合成障害による新規低血圧疾患概念の確立
〃	永井尚子 分子医学研究所 助	900	270	視床下部ヘパラン硫酸によるレプチンシグナル伝達制御機構の解明
〃	野田貴幸 薬学部 薬学, 准教授	1,300	390	ヒト化マウスによるドナー特異的抗体産生免疫プロファイリングの解明と個別化医療

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究 (C) (一般) (基金)	矢野智紀 医学部 外科学 (呼吸器外科), 教授 (特任)	1,000	300	非喫煙者肺癌の浸潤増殖にエストロゲンが与える影響の解明: 新たな肺癌治療法の探索
〃	畔柳佳幸 医学部 腎臓・リウマチ膠原病内科, 助教	1,300	390	非翻訳RNAに着目したCNI腎症早期発見システムの構築
〃	岩崎研太郎 医学部 腎疾患・移植免疫学寄附講座, 准教授	1,300	390	Indirectアロ応答T細胞の同定と坑ドナー抗体感知モニタリングへの応用
〃	小川徹也 医学部 耳鼻咽喉科学, 教授 (特任)	1,000	300	頸部リンパ節における腫瘍免疫環境の解明-免疫学的頸部郭清術の確立を目指して
〃	青山恵美 看護学部 感染看護学, 准教授	1,200	360	医療施設内結核感染予防のための結核健診受検職員の継続支援システムの構築と臨床応用
〃	山幡朗子 看護学部 基礎看護学, 准教授	700	210	地域包括ケアシステムにおいて外来看護師に求められるコンピテンシーの探索的研究
〃	山中真 看護学部 基礎看護学, 教授	1,400	420	熟練看護師の聴診技術の可視化
〃	阿部恵子 看護学部 臨床実践看護学, 教授	900	270	プライマリケア領域における診療看護師 (NP) の多職種協働によるケアモデルの構築
〃	佐々木裕子 看護学部 在宅看護学, 准教授	1,000	300	在宅でエンドオブライフを生きる訪問看護利用者への在宅スピリチュアルケアの明確化
〃	出家正隆 医学部 整形外科, 教授	700	210	変形性膝関節症に対する水中運動による筋力強化は本当に有効か?
挑戦的研究 (開拓) (基金)	小林孝彰 医学部 外科学 (腎移植外科), 教授	7,000 (継続)	2,100	抗ドナー HLA抗体産生を決定する濾胞ヘルパー T細胞クロノタイプの同定とその制御
挑戦的研究 (萌芽) (基金)	岡田洋平 医学部 内科学 (神経内科), 准教授	(再延長)	0	CAGリピート編集によるポリグルタミン病の根治的治療法の開発
〃	曾我倫久 客員研究員	1,400 (継続)	420	高齢前立腺がん患者のQOLを維持する, 個別化医療を基にした新規分子標的薬の開発
若手研究 (基金)	伊藤卓治 客員研究員	(再延長)	0	疾患iPS細胞を用いた運動ニューロン疾患の神経・筋相互作用分子基盤の解明
〃	兵頭寿典 医学部 生化学, 講師	(延長)	0	新たな分裂制御機構である収縮環における収縮「速度」制御の機能解析
〃	井戸美来 医学部 乳腺・内分泌外科, 助教 (医員助教)	(延長)	0	網羅的遺伝子解析から抽出した遺伝子産物を指標とする乳癌細分類の試み
〃	姫野龍仁 医学部 内科学 (糖尿病内科), 講師	(延長)	0	糖尿病性多発神経障害におけるinsulin-Notch連関を介した再生機構の意義
〃	成定明彦 医学部 産業保健科学センター, 講師	(延長)	0	隠れマルコフモデルによる糖尿病発症モデル構築と糖尿病発症予防への展開
〃	平澤敦彦 医学部 整形外科, 助教	(延長)	0	糖代謝異常への早期介入による靭帯骨化症是正の可能性を探る研究
〃	王超辰 医学部 公衆衛生学, 助教	(延長)	0	Circadian eating patterns and their associations with chronic diseases in the general population.

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
若手研究 (基金)	森島達観 医学部 整形外科, 講師	400 (継続)	120	最小侵襲手術に対応可能なセメントシステムの有限要素モデルを用いた開発
〃	内野かおり 医学部 血液内科, 講師	1,300 (継続)	390	造血細胞移植の腸管免疫をToll様受容体で紐解く
〃	田口宗太郎 医学部 パーキンソン病総合診療センター, 助教	800 (継続)	240	パーキンソン病治療効果の客観的判定手段としての脳血流SPECT検査の有用性
〃	梅本佳納 医学部 解剖学, 助教	200 (継続)	60	足趾レイノー現象に用いる経穴の解剖学的検討
〃	東慶輝 医学部 小児科学, 講師	1,000 (継続)	300	次世代シーケンス解析を用いた新規てんかん遺伝子の探索
〃	森麻里 医学部 周産期母子医療センター, 助教	200 (継続)	60	NICU入院中の早期運動負荷による新たな早産児の発育改善への試み
〃	土本純 分子医科学研究所 助教	1,300 (継続)	390	尿を用いた非侵襲性肝細胞がん腫瘍マーカーの開発 ビクニン上の糖鎖構造を標的として
〃	谷口千枝 看護学部 成人看護学, 准教授	500 (継続)	150	看護職のための簡便かつ効果的な禁煙サポートツールの開発と評価
〃	福重香 医学部 解剖学, 助教	1,100 (継続)	330	酸素ナノ気泡による効率的なヒト細胞大量培養法の確立
〃	安藤博彦 医学部 循環器内科, 准教授	1,100 (継続)	330	若年性心筋梗塞に対するオメガ3脂肪酸補充療法の有用性および発症予防の検討
〃	陸美穂 医学部 病理学, 助教	1,400 (継続)	420	乳癌の新規予後規定因子TSHZ2によるクロマチン制御と上皮間葉転換調節機構の解明
〃	赤木明生 加齢医科学研究所 助教	800 (継続)	240	ヒトプリオン病における異常プリオン蛋白質の非中枢神経組織への広がり解明
〃	佐藤啓 医学部 病理診断科, 助教	1,300 (継続)	390	RNAscopeを用いた末梢性T細胞性リンパ腫, 非特定型の微小環境解析
〃	伊藤秀明 医学部 病理学, 講師	900 (継続)	270	STILによるタイトジャンクション減弱機構の解明と非浸潤性乳管癌病理診断への応用
〃	陸雄一 加齢医科学研究所 助教	800 (継続)	240	前頭側頭型認知症の患者剖検脳を用いた海馬シナプス障害の解析
〃	デ・アラジョ・エルクラン プルー 客員研究員	1,600 (継続)	480	Drug screening system for early pathology of SBMA using disease specific iPSCs and novel biomarkers
〃	伊藤卓治 客員研究員	1,600 (継続)	480	疾患iPS細胞による神経・筋共培養を活用した神経変性疾患の病態解析システムの開発
〃	伊藤誠 医学部 放射線科, 助教	800 (継続)	240	大腸がん少数個腹部リンパ節再発に対する逐次免疫療法併用・寡分割放射線治療の標準化
〃	成田晶子 医学部 放射線科, 助教	1,100 (継続)	330	抗菌・鎮痛性能を有すX線可視化高吸水性ポリマー製球状物質を用いた血管塞栓術の確立
〃	竹下覚 医学部 周産期母子医療センター, 助教	1,100 (継続)	330	SGA児の血小板減少の機序解明と血小板制御による神経発達改善への治療戦略

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
若手研究 (基金)	井上匡央 医学部 肝胆臓内科, 助教	1,100 (継続)	330	胆管癌に対する新規局所治療法の開発
〃	森田奈央子 医学部 感染・免疫学, 助教	700 (継続)	210	インフラマソームがRSウイルスの病原性発現に与える影響
〃	石原亮太郎 医学部 麻酔科, 助教	600 (継続)	180	脳水チャンネル調節での脳浮腫抑制と低酸素プレコンディショニングによる脳神経保護
〃	苛原隆之 医学部 救命救急科, 講師	1,000 (継続)	300	侵襲時の栄養代謝動態の変化と治療的介入の可能性
〃	佐野 壘 研究員	1,000 (継続)	300	甲状腺癌における免疫環境の解明と免疫療法の確立
〃	石田雄一郎 医学部 眼科学, 助教	1,000 (継続)	300	網膜細胞死抑制を介した新たな網膜剥離治療の開発
〃	中山綾子 看護学部 基礎看護学, 助教	500 (継続)	150	看護師の交代制勤務継続を可能にする健康管理行動実践に向けた教育ツールの開発
〃	篠壁多恵 医学部 公衆衛生学, 講師	1,400 (継続)	420	味覚に関する遺伝子多型と糖質摂取の循環器疾患危険因子への影響
〃	板津良 看護学部 基礎看護学, 助教	1,200 (継続)	360	集中治療室における薬剤耐性菌MRSA交差伝播の危険因子とリスク低減ケア方策の解明
〃	高原大志 医学部 病理診断科, 助教	1,400	420	腎細胞癌におけるTGF- β 発現の意義の解析
〃	水野昌平 医学部 血液内科, 准教授(特任)	1,400	420	PVT1 RNAに着目した新たなリンパ腫の分子病態解明と新規標的治療への応用
〃	小川実加 医学部 中央臨床検査部, 講師	1,200	360	血友病関節症の解明と新規治療法開発: 骨芽細胞, MSC, メトホルミンに着目して
〃	金杉 丈 医学部 血液内科, 助教(医員助教)	1,700	510	CRISPR/Cas9システムを用いたFAM46Cのゲノム編集および表現型解析
〃	塩入達政 分子医科学研究所 助手	900	270	I型アレルギー反応の決定的セルグリシン: 肥満細胞分泌顆粒への輸送機構
〃	青山正寛 医学部 脳神経外科学, 講師	300	90	慢性硬膜下血腫にたいするエビデンスのある薬剤の解明
〃	林文子 看護学部 母子看護学, 助教	1,400	420	妊娠糖尿病の一次予防に関するエビデンスの構築: 非妊娠時の骨格筋量と血糖値の関連
研究活動スタート支援 (基金)	新田美里 看護学部 在宅看護学, 助教	(延長)	0	医療的ケア児を受け入れる放課後等デイサービスの現状と課題
〃	呉ユ一秋 薬理学部 助教	1,100 (継続)	330	ストレスによる交感神経系活性化に関与する脳内メディエーターの遺伝子産物の解析
〃	前仲亮宏 薬学部 薬剤師	1,100 (継続)	330	難治性拒絶反応克服のための抗原制御の試みと誘導性HLAに対する免疫応答の解明
〃	原尚子 客員研究員	1,100 (継続)	330	リンパ浮腫におけるリンパ管, 周辺組織の病理学的解析と病態解明, 治療法開発

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
研究活動スタート支援 (基金)	若山 怜 医学部 衛生学助教	1,100 (継続)	330	行動変容ステージが生活習慣と生活習慣病予防に及ぼす影響の縦断的検討
〃	名仁澤 英里 医学部 解剖学助教	1,100 (継続)	330	短期高脂肪食モデルによる非アルコール性脂肪肝炎の超早期病態の解明
〃	大塚 俊 医学部 解剖学助教	1,100 (継続)	330	身体能力に基づく深筋膜の可塑性の解明：新たなコンディショニング法の開発に向けて
奨励研究 (補助金)	石田 優利 薬学部 管理栄養士	470	0	筋肉量推定式の妥当性の検討

- ・令和3年7月1日時点の情報を掲載
- ・研究種目及び課題番号順にて記載
- ・氏名は、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載
- ・「交付決定通知」及び「交付申請書」を基に作成
- ・令和3年7月までの転入転出を含む
- ・基金については、今年度請求額を記載
- ・研究活動スタート支援（新規）は、交付決定があり次第、記載予定

令和3年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構 委託研究開発契約の締結

令和3年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究課題が採択され、次のとおり研究契約を締結しました。

(金額単位：千円)

研究事業名	研究開発担当者	委託研究開発費	研究開発課題名
脳とこころの研究推進プログラム	祖父江 元 理学部長	91,000	孤発性筋萎縮性側索硬化症の双方向トランスレーショナル研究による病態介入標的の同定と核酸医薬の開発研究
難治性疾患実用化研究事業	祖父江 元 理学部長	89,375	筋萎縮性側索硬化症克服のためのDeep-Phenotypingの統合解析を通じた治療開発研究
肝炎等克服実用化研究事業 B型肝炎創薬実用化等研究事業	伊藤 清 顕 医学部 内科学(肝胆臓内科)教授(特任)	71,130	胆汁酸代謝調節機構を標的としたB型肝炎ウイルス制御
再生医療実現拠点ネットワークプログラム疾患特異的iPS細胞の利活用促進・難病研究加速プログラム	岡田 洋平 医学部 内科学(神経内科)准教授	39,000	神経・筋相互作用を標的とした運動神経疾患の病態解明と治療開発
創薬基盤推進研究事業	祖父江 元 理学部長	30,000	大規模疾患レジストリとiPS細胞技術を活用した筋萎縮性側索硬化症に対する新規治療薬開発(企業拠出)
創薬基盤推進研究事業	祖父江 元 理学部長	27,000	大規模疾患レジストリとiPS細胞技術を活用した筋萎縮性側索硬化症に対する新規治療薬開発(AMED拠出)
難治性疾患実用化研究事業	熱田 直樹 医学部 内科学(神経内科)特命准教授	13,000	筋萎縮性側索硬化症の診療に直結するリアルワールドエビデンスの創出

- ・令和3年7月末日までの日本医療研究開発機構委託研究の代表課題を記載（変更契約を含む）
- ・委託研究開発費は、他機関への再委託費及び間接経費を含む

本学講座等の主催による学会等

【学会名】

【開催日】

【会長等】

・第13回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会

令和3年6月17日（木）～19日（土）

出家 正隆

・第16回日本褥瘡学会中部地方会学術集会

令和3年6月20日（日）

古川 洋志

第13回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会

整形外科学講座・教授 出家 正隆

令和3年6月17日（木）から19日（土）までの3日間にわたり、第13回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSKAS）を主催させていただきました。第13回JOSKASは、第47回日本整形外科スポーツ医学会（JOSSM）学術集会との合同で、JOSKAS-JOSSM 2021として開催致しました。札幌での開催を目指して準備をしておりましたが、COVID-19による感染症拡大のため、ライブ配信とオンデマンド配信によるハイブリット開催としました。

一般演題は1,000演題を超える応募があり、最終参加者数は2,500名を超えることができました。本会テーマは「Breakthrough and evaluation」とし

ていたのですが、初日から10会場中9会場でライブ中継を行い、1会場は海外演者のオンデマンド用に設定しました。アメリカからのライブによる招待講演を始め、いずれもほぼ問題なく運営できたことは、With Corona時代の学会運営としてはbreakthroughであったと思っております。ライブ配信で臨場感も保つことができ、討論も活発に行われ、進行の遅れを気にする会場もあり、現地開催と遜色のない学会であったと感じております。

本学会の開催に当たり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援をいただきましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

第16回日本褥瘡学会中部地方会学術集会

形成外科・教授 古川 洋志

令和3年6月20日（日）に、第16回日本褥瘡学会中部地方会学術集会を開催致しました。当初は、ウイックあいちにて令和2年3月15日（日）に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とし、再度日程調整の上、全てWeb開催としました。

本学会のテーマは、「チーム褥瘡～連携を深める～」とし、多職種連携をテーマに掲げました。特別講演には、日本褥瘡学会創設に多大な尽力をされた北海道大学名誉教授の大浦武彦先生、教育講演には、本院緩和ケアセンターの森直治教授を始めとして、3名の先生方にご講演いただきました。特別企画1では褥瘡診療を地域内の連携で行う「ネットワークの力」について、共催セミナーでは新型コロナウイルス感染症拡大の中での病院と地域の連携についてご講演いただきました。また、職種を超えて連携を深めるた

めの特別企画2「パネルディスカッション：チーム褥瘡～One TEAM～」においては、医師、皮膚・排泄ケア認定看護師、在宅訪問看護師、理学療法士、栄養士（本院の久野和隆栄養士）、臨床検査技師、薬剤師に、それぞれの立場から褥瘡ケアについてご発表いただき、討論会をZoomで収録し、編集後にオンデマンド配信致しました。学会参加登録人数は172名で、多数アクセスしていただき、地方会開催の務めを何とか果たせたのではないかと考えております。

本学会の開催に当たり、ご支援とご協力を賜りました多くの方々、本院の褥瘡対策チームを中心とした職員の皆さまに深く感謝致します。また、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からのご支援により、無事に終了することができました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

「呼吸器外科とは？」から始めます

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

○ 卒前

学生、若手医師の外科離れが叫ばれて久しい状況のなか、授業（座学）のみの段階では、呼吸器外科の認知度は驚くほど低く、どのような疾患を対象にしているのか？どのような診療や手術をしているのか？呼吸器外科医師がどのような生活を送っているのか？を、知らない学生が多いということが我々に危機感を抱かせます。

まずは対面で我々のことを知ってもらい、学生の疑問を引き出します。現場では、手術にできるだけ入り、目の前で技術を見てもらい、可能な場面では手伝ってもらいます。チームの一員になった実感が経験として残るように指導者側として配慮しています。これにより、プロフェッショナリズムを体感できます。時には、シミュレーターやドライラボ・ウェットラボを活用して同様の経験をしてもらうことで補完しています。

○ 卒後

何より必要なのが手術手技の習得ですが、「体系的な指導」、「伝える努力」が必須です。手術トレーニングにはシミュレーション、ハンズオン（ドライ、ウェット）、アニマルラボ、cadaverトレーニング、そして、実際の手術という各段階があります。患者さんにより良い手術を提供するためのトレーニングではありますが、同時に学生や若手医師に興味を持ってもらう良い機会になりますので積極的に行います。

【世界に発信する医学研究】

日々の診療で生じた疑問、課題（クリニカルクエ

外科学講座（呼吸器外科）・教授 福井 高幸

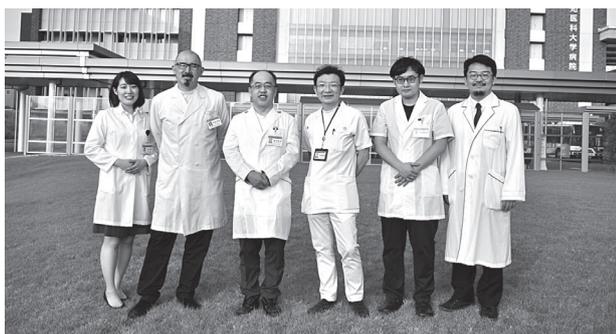
スション）の解明、ひいては診療の質向上に繋がるような臨床研究に取り組んでいます。現在進行中の研究は、「肺切除術後の胸腔ドレーン刺入部の創傷治癒は感染のためしばしば遷延する」という問題から始まっています。このドレーン刺入部の感染について治癒遷延や創感染の頻度を把握し、感染の原因菌を解析することで、肺切除術後の最適な抗菌薬投与方法を提案することを目指し症例を集積中です。本研究は他施設では行われていないユニークな取り組みです。

この傍ら、本講座の矢野智紀教授（特任）が中心となり、よりベーシックな研究にも取り組んでいます。特に、女性ホルモンと肺癌の関係に着目し、化学療法の進歩が著しい今日の非小細胞肺癌の治療に新たな側面からアプローチしています。「非喫煙者肺癌の浸潤増殖にエストロゲンが与える影響の解明」、「女性ホルモンが非浸潤性肺腺癌に及ぼす影響」をテーマとし、科研費を獲得しています。

【部署からの一言】

いわゆるVital organを相手にし、専門性が高いと言われる呼吸器外科ですが、当地区では呼吸器外科医の不足状態が何年、何十年も続いています。諸大学はこれを改善する使命を負っていますので、本診療科から一人でも多くの呼吸器外科医を育てたいと思っています。

また、難治癌の代表である肺癌、その他の胸部疾患に立ち向かうために技術（Art）を磨くことと、疑問を解決しエビデンスを築くための科学（Science）を両立させるつもりです。



医局員集合写真



クリクラ学生への指導の様子

主体的に考える力を養う

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

現代医学は日進月歩で発展を続けています。医学教育も日々変化が求められますが、近年はグローバルスタンダードに準拠して「主体的に考える力を養うこと」が、重要視されています。本学は令和2年6月に、一般社団法人日本医学教育評価機構から世界医学教育連盟のグローバルスタンダードの評価基準に適合していることが認定されました。新たに医学教育の根幹であるコンピテンシーが制定されましたが、本診療科では、これに基づいたアウトカム基盤型教育やアクティブ・ラーニングの実践に取り組んでいます。臨床講義においては、一方向的な受動的講義を減らし、TBL (Team Based Learning) を取り入れました。治療法の定まっていない症例を提示後、今後の診療方針をどうすればいいかを7、8人のグループで討議するというスタイルです。能動的な授業が可能になりました。

臨床実習においては、診療参加型実習の一環として外来での実習時間を大幅に増やしました。患者さんに同意が得られた場合は、指導医の指導・監視の下に医行為として身体診察を行わせています。また、外来で学んだ知識を基に、薬物療法導入時の説明のロールプレイを学生同士で行わせ、「頭を使って考える」ことをトレーニングしています。医学生の主体的な学修を促せるように日々努めています。

【世界に発信する医学研究】

超音波 (US) 画像と、US走査面に一致したMRI画像を同一モニター上で同期することができるバー



医局員集合写真

外科学講座 (乳腺・内分泌外科)・教授 中野 正吾

チャルリアリティ技術「Real-time Virtual Sonography (RVS)」が我が国で開発されました。本診療科ではRVSを導入し、乳房USと乳房MRI画像情報を一致させる手法を世界に先駆けて考案し、臨床応用を行っています (Jpn J Clin Oncol, 2009, Breast Cancer Res Treat, 2012)。この平成21年の論文は、paper of the year 2010に選出されました。RVSを用いることで、通常のUSでは同定できないMRI偶発造影病変の85%を検出できたことや、乳房温存手術において断端陽性率を17%にできたこと (Ultrasound Med Biol, 2017, 2018) を報告しています。また、通常のUSでは検出が困難なMRI非腫瘍性病変の86%を検出することが可能でした (submitting, 2021)。我々が開発した手技は国内のみならず、イタリア、韓国、イギリス、スペイン、トルコにおいて追試が行われ、有効性が実証されています。

【部署からの一言】

医学教育を取り巻く環境は、大きく様変わりしつつあります。特に、卒前教育においては、学ぶべき医学知識が格段に増え続けている中、知識伝授型の教育からの脱却、グローバルスタンダードに基づいた教育体制の確立、能動的学修への転換が急務となっています。国民の健康を支える良き医療人を育成するために、我々も日々研鑽を積む所存です。また同時に、今まで以上に世界の人々の健康に貢献できるような医学研究にも積極的に取り組んで参ります。



症例検討会の様子

～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

「Smile ～スマイル～」では、大学・病院で活躍する職員の笑顔にスポットライトを当てて、各部署における活動内容や取り組み等について紹介致します。

内視鏡センター

内視鏡は、日本の医療機器メーカー3社が世界の99%のシェアを持ち、日本が圧倒的に優位に立つ分野です。そのため、世界のトップランナーである我が国の内視鏡医療は、機器の開発や技術の向上、画像診断へのAI導入など、近年、長足の進歩を遂げており世界からも大変注目されています。本院の内視鏡センターでは、最先端の機器を備え、内視鏡指導医や専門医資格を持った消化器内科、肝胆膵内科、消化器外科、呼吸器・アレルギー内科、呼吸器外科、小児科などの多くの医師と、内視鏡技師資格を取得した看護師が協働して、特定機能病院に相応しい安全で質の高い内視鏡診療を提供しています。

内視鏡センターは、平成17年7月に旧病院に開設され、平成26年5月には新病院開院とともに新病棟3階に移転しました。検査件数は、設立当初の年間5千例から1万例へと倍増し、高度で複雑な内視鏡が多数行われるようになりました。また、食道アカラシアに対する内視鏡的食道筋層切開術（POEM）を施行可能な東海地区で唯一の施設として、全国から多くの患者さんが紹介されてきます。

本センターでは、従来から感染予防対策を徹底していましたが、COVID-19が蔓延している状況では、内視鏡検査時にウイルスを含む飛沫やエアロゾルが拡散する可能性があるため、スタッフ全員がより一層の感染対策



スタッフ（一部）の集合写真



内視鏡センターの様子

を心掛けるようにしています。このような厳しい状況ではありますが、本センターの理念である、「最高レベルの内視鏡医療を安心安全に提供する。」を具現化すべく、スタッフ一丸となって継続し努力して参ります。

感染制御部

感染制御部は、平成19年8月に設置され、診療支援、卒前・卒後教育、研究を三本柱とした活動を行っています。平成15年1月には、診療科として感染症科が設置されたことを契機として、感染制御部も組織改編され、感染管理室、感染検査室の二つの部門が設置されました。感染管理室では、主に各種感染症患者の診療及び感染症の伝播防止（感染対策）を行っており、この実働部隊として、感染対策業務を担うInfection Control Team (ICT)、診療支援業務を担うAntimicrobial Stewardship Team (AST) があります。

ICTはCOVID-19時代になり、スタッフの過重労働が問題になる程、院内での存在感が高まりました。一方、ASTはCOVID-19時代においても、silent pandemicとして世界的な問題となっている薬剤耐性菌による感染症も注視しています。感染制御部内に感染検査室が組織されていることは、科学的データに基づいた診療を行うには最も適した体制となっています。ICT、ASTともに、医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、事務職員が協力し合いながら、「チーム医療」として日々院内の感染症診療支援及び感染蔓延防止に取り組んでいます。

教育では、医学部・大学院医学研究科の教育のみならず、



毎日実施しているASTラウンド風景

、他の医療機関からの学生を受け入れています。研究面では、感染症の早期診断法の確立、薬剤耐性菌感染症に対する治療法の確立を目指しています。特に、嫌気性菌感染症に関する研究においては、世界的にも代表的な研究室です。

愛知医科大学病院感染制御部が目指している感染制御のキーワードは、科学に基づいたアプローチ、情報の公開、地域医療連携と地域医療への貢献です。我々は、「医療関連感染をゼロにすることはできないが、できる限り少なくするべく努力を惜しまない。」を合言葉にして日々の診療支援活動を行っています。

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

人を対象とする医学系研究等に関する倫理規程の一部改正等

関連指針が統合され、新たに「人を対象とする生命科学・医学系研究等に関する倫理指針」が定められたことに伴い、当該指針の内容に対応するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和3年6月30日

【一部改正】

- ・愛知医科大学における人を対象とする医学系研究等に関する倫理規程
- ・愛知医科大学医学部倫理審査実施規程
- ・愛知医科大学医学部倫理委員会規程
- ・倫理審査手数料の額について（理事長裁定）
- ・学生を被験者とする研究に係る依頼方法について（医学部長裁定）

【廃止】

- ・平成21年4月1日改正前の愛知医科大学倫理審査実施規程の規定により承認された医学系研究等の研究計画の変更に係る審査の取扱いについて（医学部長裁定）

医学部の学科目及び講座に関する規程の一部改正等

医学部に新たにリハビリテーション医学講座が設置されたことに伴い、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和3年7月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学医学部の学科目及び講座に関する規程
- ・愛知医科大学大学院医学研究科の研究指導及び講義等の担当教員に関する規程

中央診療部に関する規程の制定等

中央診療部の組織及び業務を理事長の判断のもとで決定し、病院の特色のある関連領域を組織横断的に集約したセンター等の設置・改廃を時代のニーズに応じて随時対応するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和3年6月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学病院中央診療部に関する規程

【一部改正】

- ・愛知医科大学病院規程

医療従事者業務分担推進委員会要綱の一部改正

愛知医科大学病院医療従事者業務分担推進委員会要綱の一部が改正され、委員会名称、委員構成、任務等が改められました。

施行日は令和3年6月1日

頭蓋底外科センター規程の制定等

病院の中央診療部に新たに頭蓋底外科センターを設置するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和3年6月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学病院頭蓋底外科センター規程
- ・愛知医科大学病院頭蓋底外科センター運営委員会規程